

# 講 義 要 綱

令和8年度

島田市立看護専門学校



## 目次

教育方針・教育目的・教育目標	1
カリキュラム一覧	2
各分野の考え方	5
基礎分野	
倫理学	6
情報科学	7
教育学	9
心理学	10
人間関係論	11
人間力育成	12
健康とスポーツ	15
生活科学	16
表現と論理	17
家族社会学	18
英語	19
国際社会学	20
専門基礎分野	
生理解剖学	21
栄養生化学	32
微生物学	33
医療概論	34
病態生理学	35
診断と検査	51
治療学	53
医療倫理	59
公衆衛生学	60
社会福祉	61
看護と法律	63
臨床心理学	64
専門分野	
基礎看護学	65
地域・在宅看護論	76
成人看護学	81
老年看護学	88
小児看護学	92
母性看護学	96
精神看護学	101
看護の統合と実践	107



# 教育方針・教育目的・教育目標

## 教育方針

本校では次に掲げる3つの柱を看護学生育成の基本理念として教育をすすめております。

1. 豊かな人間性の育成を目指す
2. 専門職として発展した看護を実践するための基礎的能力を育成する
3. 広く社会に貢献できる看護師を育成する

この3つの理念は、将来看護師を目指す者の教育にもっとも重要な点であると考えています。これらは「人間的豊かさを備え、温かく感性豊かで相手の気持ちになってももの考えられる人」を育成する教育を優先するものです。

なぜならば、看護は生きている人間に直接関わる職業であり、常に人間関係を基盤として対象を支援する仕事であるからです。そしてそこには、必然的にそれに関わる看護者の人間性や、人格、人間観、価値観等がそのまま対象に影響し、反映するものです。

すなわち、それは看護を行う人の質の良否に関係するものであり、将来対象により看護を提供できる看護者になるためには、看護教育の中でまず人づくり教育が成されることが必要だと考えるからです。

そしてその上に看護教育が行われてこそ、教育の意義があると考えます。

さらに看護に終わりはなく、日々研鑽を積み、看護を探究する姿勢を育成する必要があります。

また、看護の対象は健康・不健康を問わず、看護の場も病院だけでなく様々な場があり、国内外も問わず広い視野で考え貢献できる看護師育成を目指します。

## 教育目的

豊かな人間性を養い、科学的思考を基盤とした看護の実践力と保健・医療・福祉全般にわたる広い視野を備え、広く社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

## 教育目標

1. 生命の尊厳と人格の尊重の理念を基調として、感性豊かで倫理に基づいた行動がとれる
2. 人間を生活者として捉え、全人的に幅広く理解することができる
3. 自己の感性を磨き、共感する心を持ち、よりよい人間関係を築くことができる
4. 基礎的知識と技術を活用し、人間の健康レベルや発達段階の特徴に応じた看護を科学的根拠に基づき、実践することができる
5. 保健・医療・福祉における看護師および他職種との連携・協働の必要性を理解し、人々が地域でその人らしくくらすことを目指し支援することができる
6. 看護実践における自らの課題に取り組み、看護の質向上を目指し自己研鑽し続けることができる

カリキュラム一覧

	教育内容	授業科目	単位数	授業時間数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	倫理学	1	15
		情報科学Ⅰ	1	15
		情報科学Ⅱ	1	30
		教育学	1	30
		心理学	1	15
		人間関係論	1	30
		人間力育成Ⅰ	1	15
		人間力育成Ⅱ	1	15
		人間力育成Ⅲ	1	15
		健康とスポーツ	1	30
		生活科学	1	30
		表現と論理	1	30
		家族社会学	1	15
		英語	1	30
		国際社会学	1	30
	小計	15	345	
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	生理解剖学Ⅰ	1	30
		生理解剖学Ⅱ	1	30
		生理解剖学Ⅲ	1	30
		生理解剖学Ⅳ	1	30
		生理解剖学Ⅴ	1	15
		栄養生化学	1	30
		微生物学	1	30
		医療概論	1	15
		病態生理学Ⅰ	1	30
		病態生理学Ⅱ	1	30
		病態生理学Ⅲ	1	30
		病態生理学Ⅳ	1	30
		病態生理学Ⅴ	1	15
		病態生理学Ⅵ	1	15
		診断と検査	1	15
		治療学Ⅰ	1	30
		治療学Ⅱ	1	30
		治療学Ⅲ	1	15
	健康支援と社会保障制度	医療倫理	1	30
		公衆衛生学	1	15
		社会福祉概論	1	30
		社会福祉各論	2	30
		看護と法律	1	30
臨床心理学		1	15	
	小計	25	600	

専 門 分 野	基礎看護学	基礎看護学 原論	1	30
		基礎看護技術Ⅰ－1	1	30
		基礎看護技術Ⅰ－2	1	30
		基礎看護技術Ⅱ－1	1	30
		基礎看護技術Ⅱ－2	1	30
		基礎看護技術Ⅱ－3	1	30
		基礎看護技術Ⅲ－1	1	30
		基礎看護技術Ⅲ－2	1	30
		看護過程	1	30
		看護研究	1	30
		臨床推論	1	30
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護論 原論Ⅰ	1
	地域・在宅看護論 原論Ⅱ		1	30
	くらしを支える看護Ⅰ		1	30
	くらしを支える看護Ⅱ		1	15
	くらしを支える看護Ⅲ		2	30
	成人看護学	成人看護学 原論	1	30
		成人看護学 看護方法Ⅰ	1	15
		成人看護学 看護方法Ⅱ	1	30
		成人看護学 看護方法Ⅲ	1	30
		成人看護学 看護方法Ⅳ	1	30
		成人看護学 看護方法Ⅴ	1	15
	老年看護学	老年看護学 原論	1	30
		老年看護学 看護方法Ⅰ	1	30
		老年看護学 看護方法Ⅱ	1	30
		老年看護学 看護方法Ⅲ	1	20
	小児看護学	小児看護学 原論	1	15
		小児看護学 疾患と治療	1	30
		小児看護学 看護方法Ⅰ	1	30
		小児看護学 看護方法Ⅱ	1	30
	母性看護学	母性看護学 原論	1	30
		マタニティサイクルの経過	1	30
		マタニティサイクルにおける看護	1	30
		マタニティサイクルにおける看護過程・看護技術	1	15
	精神看護学	精神看護学 原論	1	30
		精神看護学 疾患と治療	1	15
		精神看護学 看護方法Ⅰ	1	30
		精神看護学 看護方法Ⅱ	1	30
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1	30
		看護倫理	1	15
		災害看護と国際看護	1	30
		看護総合演習Ⅰ	1	15
		看護総合演習Ⅱ	2	30

臨地実習	基礎看護学Ⅰ期実習	1	40
	基礎看護学Ⅱ期実習	1	40
	基礎看護学Ⅲ期実習	2	80
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	3	90
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	80
	成人看護学実習Ⅰ	3	90
	成人看護学実習Ⅱ	3	90
	老年看護学実習Ⅰ	1	40
	老年看護学実習Ⅱ	3	90
	小児看護学実習	2	80
	母性看護学実習	2	80
	精神看護学実習	2	80
	看護の統合と実践実習	3	90
小 計		73	2130
合 計		113	3075

## 各分野の考え方

### (1) 基礎分野 15単位 ( 345時間 )

基礎分野は、専門基礎分野・専門分野を学ぶための基礎として位置付ける。

看護師である前に、まず一人の人間として成長することが大切であると考え、相手を広い心で受け止め、同時に自分自身の在り方についても深く考えることが必要とされる。そのために、基礎分野は、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高めるための科目、感性を磨き生活者としての人間と社会を幅広く理解できる内容とする。また、人間と社会の仕組みを幅広く理解する内容とし、家族社会学・人間関係論・心理学を設定した。その他国際化、情報化社会に対応できるような国際社会学、情報科学の科目を入れた。

### (2) 専門基礎分野 25単位 ( 600時間 )

専門基礎分野は、専門分野の基礎として位置付ける。

人間を社会や家族のなかで生活する人としてとらえ、人間の構造・機能を考えながら、また、生老病死という過程を健康・疾病・障害の成立と回復の促進として考え学ぶ。人間の生命の営みを多角的に理解できるよう、また看護場面での判断に役立つように、人間の身体の構造・機能を正常から異常へと系統的に段階をおって理解を深められるよう学習する。主体的な学習を促すため、生理解剖学と病態生理学で演習を取り入れ看護に活かせるように構成している。

健康や障害に応じて社会資源を活用できるよう医療の仕組みや関連領域についても学び、多職種も理解した上で、具体的に看護につなげていけるように科目を設定した。

### (3) 専門分野 73単位 ( 2130時間 )

基礎分野と専門基礎分野を土台として、各看護領域の理論や技術を学ぶ。

専門分野は、8領域に分かれている。それぞれの領域において、その分野の特徴を踏まえ看護を実践できるように、領域の基本を学んだ後に看護方法を学ぶよう構成している。

看護学は実践の学問であり、講義、学内演習、臨地実習と段階的に学習をしていくことで、実践にまでつなげられる力が育成できるよう構成している。

授業科目	倫理学	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	中村 美智太郎
								職種	
授業のねらい・目標	<p>ねらい:倫理学における主要なテーマのいくつかを題材としながら、倫理的な問題に関する基本的な知識を身につけ、議論できる能力を養う。</p> <p>目標:受講者が、一人の人間として、また専門職として、生命・死・人権・善い行為・価値観等を見つめることで、倫理学の基本的な考え方について理解を深めること。また、自己理解・他者理解の本質に関わる倫理的な問題に関する基礎的知識を身につけるとともに、人間を対象とする職業に従事する者として必要な基礎的知識・態度の獲得と基本的資質の形成を行うこと。</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
		1	倫理学とはどのような学問か:動物と人間				講義	中村	
		2	生と死について①:自己決定と死ぬ権利				講義	中村	
		3	生と死について②:私たちはいかにして決意するか				講義	中村	
		4	自由とプライバシーについて:生殖医療・遺伝子医療				講義	中村	
		5	善, 偽善, 悪について				講義	中村	
		6	倫理学のメソッド:ディスカッションとプレゼンテーション				講義	中村	
		7	総括:倫理を考える3つの視点				講義	中村	
		8	試験				試験	中村	
評価方法	「筆記試験」, 「毎回の講義への参加貢献」, 「毎回の小課題」によって評価する。								
履修上の注意	既存の知識を単に暗記するのではなく、倫理をめぐる諸問題について自ら認識を深め、判断し、他者の意見を尊重しながら自らの意見を持つことができるよう、積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。受講時に、PC/タブレット/スマホのいずれかを持参すること。								
テキスト	特に指定しない。講義時にプリント資料を配布する。								
参考図書	赤林朗編(2017/2022)『入門・医療倫理 I (改訂版)』勁草書房。								

授業科目	情報科学 I	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次前期	担当者	鈴木 佳代	
								職種		
授業のねらい・目標	<p>情報とICT機器の活用方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報とは何かを説明できる。</li> <li>○情報モラルとセキュリティーについて理解している。</li> <li>○キーボード入力の問題なくできる。</li> <li>○基本的な文書作成ができる。</li> <li>○ネットの基本的な活用ができる。</li> </ul>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当		
		1	情報の定義と特徴 情報モラルと情報セキュリティー				講義	鈴木		
		2	コンピュータの仕組み－ハードウェアとソフトウェア Windowsの基本操作				講義	鈴木		
		3	キーボード入力の方法 Wordの基本操作				講義	鈴木		
		4	Wordを用いた文書作成－箇条書き、表、画像の挿入				講義	鈴木		
		5	Wordを用いた文書作成－見出しの活用				講義	鈴木		
		6	インターネットの仕組みと注意点 ネットの活用－電子メールの使い方と注意点				講義	鈴木		
		7	ネットの活用－検索エンジンの利用、SNSの種類と特徴 ネットの活用－モラルとセキュリティー				講義	鈴木		
		8	まとめと実技試験					鈴木		
評価方法	<p>「授業の目標ねらい」に示した項目に関連する課題:70%          授業で行ったことに関する実技試験:30%          合計:100%で評価します。</p>									
履修上の注意	<p>仕事をする上でコンピュータの利用は避けて通れません。情報科学2と併せて履修することで、仕事をしていくために必要なスキルを身につけましょう。</p>									
テキスト	<p>中山和弘著者代表, 系看 別巻 看護情報学, 医学書院</p>									
参考図書	<p>太田勝正、前田樹海, エッセンシャル看護情報学 2026年度版, 医歯薬出版</p>									

授業科目	情報科学Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	鈴木 佳代	
									職種		
授業のねらい・目標	<p>情報科学Ⅰで学んだ内容をもとに、情報に関する実践的な活用を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療と看護に必要な情報が説明できる。</li> <li>○簡単な統計処理ができる。</li> <li>○プレゼンテーション資料の作成ができる。</li> <li>○ネットを活用したリモートワークができる。</li> </ul>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	医療と看護に必要な情報とは何か					講義	鈴木		
		2	患者の権利と個人情報の保護					講義	鈴木		
		3	既存の情報の収集方法－検索エンジンの活用					講義	鈴木		
		4	ネットの活用－クラウドサービス・ファイル共有・ビデオ会議					講義	鈴木		
		5	Excelによる統計解析－Excelの基本操作・データの入力形式と表示方法					講義	鈴木		
		6	Excelによる統計解析－データの種類と単純集計、グラフ					講義	鈴木		
		7	Excelによる統計解析－正規分布の特徴、統計的推定と95%信頼区間					講義	鈴木		
		8	Excelによる統計解析－検定と分析					講義	鈴木		
		9	Excelによる統計解析－Excelによる各種平均の検定					講義	鈴木		
		10	Excelによる統計解析－散布図・相関・回帰					講義	鈴木		
		11	Excelによる統計解析－Excelによる散布図と回帰分析					講義	鈴木		
		12	PowerPointの基本操作					講義	鈴木		
		13	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成(1)					講義	鈴木		
		14	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成(2)					講義	鈴木		
		15	まとめと実技試験						鈴木		
評価方法	<p>「授業の目標ねらい」に示した項目に関連する課題:70%          授業で行ったことに関する実技試験:30%          合計:100%で評価します。</p>										
履修上の注意	<p>「情報科学Ⅰ」で学んだ内容をふまえて、ICTの活用や基本的な統計など、日常でも役立つ情報の扱い方を学んでいきます。授業には積極的に参加し、課題にも主体的に取り組む姿勢を大切にしてください。</p>										
テキスト	中山和弘著者代表, 系看 別巻 看護情報学, 医学書院										
参考図書	太田勝正, 前田樹海, エssenシャル看護情報学 2026年度版, 医歯薬出版										

授業科目	教育学	単位	1単位	時間数	30 時間	講義時期	1 年次後期	担当者	鈴木 三平
								職種	
授業のねらい・目標	教育とケア(人間の成長・発達と健康)について理解する。								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
		1	教育と看護の基盤、世代交代とケア				講義	鈴木	
		2	発達という見方 ①ピアジェ(Piaget,J.)の認知発達理論				講義	鈴木	
		3	発達という見方 ②エリクソン(Erikson,E.H.)の発達段階(自我発達)と発達課題				講義	鈴木	
		4	発達という見方 ③ハヴィガースト(Havighurst,R.J)の各発達段階における発達課題				講義	鈴木	
		5	歴史・社会の中の発達観				講義	鈴木	
		6	権利主体としての子ども				講義	鈴木	
		7	発達を支える・促す、「教育による発達」の理論				講義	鈴木	
		8	発達における身体と感情、発達と教育の未来像				講義	鈴木	
		9	養護と看護				講義	鈴木	
		10	学校保健 ①健康管理				講義	鈴木	
		11	学校保健 ②学校保健活動				講義	鈴木	
		12	学校保健 ③学校保健の広がり(健康教育の課題)				講義	鈴木	
		13	健康教育の方法論としてのエンパワメント				講義	鈴木	
		14	アドボカシーの概念と方法				講義	鈴木	
	15	試験					鈴木		
評価方法	筆記試験								
履修上の注意	毎回の授業内容の事前学習とその復習								
テキスト	系統看護学講座 基礎分野『教育学』 医学書院								
参考図書	授業時に必要に応じて紹介								

授業科目	心理学	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次前期	担当者	竹田 真実
								職種	臨床心理士
授業のねらい・目標	1. 心理学の基礎を学び、人間の心理や行動のしくみとその背景、人間関係の理解に役立てる。 2. 個人の心理、集団の心理について学ぶ。								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
		1	感覚・知覚の心理				講義	竹田	
		2	学習・記憶の心理				講義	竹田	
		3	感情・動機の心理				講義	竹田	
		4	性格・知能の心理				講義	竹田	
		5	性格・知能の心理				講義	竹田	
		6	発達心理				講義	竹田	
		7	発達心理 社会集団の心理				講義	竹田	
		8	試験					竹田	
評価方法	筆記試験								
履修上の注意									
テキスト	長田久雄編, 看護学生のための心理学, 医学書院								
参考図書									

授業科目	人間関係論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	高岡しの	
								職種		
授業のねらい・目標	基本的な人間関係に関する理論を学び、看護の基本となる対象者との援助的人間関係、および組織における人間関係の形成について理解を深める。また人と関わる上で不可欠な自己理解や他者理解について考え、グループワークなどを通してコミュニケーションについても理論とスキルを体験的に学習する。									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法		担当	
		1	人間関係とは				講義・演習		高岡	
		2	自己理解と他者理解①				講義・演習		高岡	
		3	対人関係の基礎				講義・演習		高岡	
		4	コミュニケーションとは				講義・演習		高岡	
		5	人間関係の諸相①				講義・演習		高岡	
		6	人間関係の諸相②				講義・演習		高岡	
		7	集団における人間関係				講義・演習		高岡	
		8	対人援助における人間関係				講義・演習		高岡	
		9	コミュニケーションスキル				講義・演習		高岡	
		10	傾聴と共感				講義・演習		高岡	
		11	コーチングとアサーションスキル				講義・演習		高岡	
		12	自己理解と他者理解②				講義・演習		高岡	
		13	セルフマネジメント①				講義・演習		高岡	
		14	セルフマネジメント②				講義・演習		高岡	
		15	試験・まとめ				試験・講義		高岡	
評価方法	筆記試験									
履修上の注意										
テキスト										
参考図書	授業内で適宜紹介します									

授業科目	人間力育成 I		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次 前期	担当者	村松 増田 他	
									職種		
授業の ねらい ・目標	<p>人間力育成の科目では、周囲の人々への気配りや心遣いを大切に、良好な関係を築くことができるよう基本的な態度を習得することを目的とし段階的に学習をすすめる</p> <p>1、社会人となるための基礎的な知識・技術・態度を理解する</p> <p>1) 信頼関係の形成に必要な接遇のスキルを身に付けることができる</p> <p>2) 看護の対象者となる人々がくらす地域の産業や祭事を知ることができる</p> <p>3) 年金や経済等を学び、社会の仕組みや財源、消費生活者としての知識を高めることができる</p> <p>4) 自己の学習・経験を形に残していくことができる</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	ポートフォリオについて(学習の積み上げに関すること含む)					講義・演習	増田幸子		
		2	接遇研修(人間関係を築くマナーの基本・実践)					講義・演習	村松美紀(中北薬品マナーインストラクター)		
		3	接遇研修(コミュニケーション、講師への対応方法)					講義・演習	村松美紀(中北薬品マナーインストラクター)		
		4	島田市の文化・芸能を知る(帯祭り・髷祭りほか)					講義	(島田市役所観光課)		
		5	島田市お茶セミナー(お茶の効果・効能、入れ方)					講義・演習	(島田市役所農業振興課)		
		6	消費生活セミナー(45分)、年金セミナー(45分)					講義	(島田市役所生活安心課) (日本年金機構)		
		7	実習に行くにあたってのマナー					講義・演習	マイナビ		
		8	まとめ (45分)					講義	増田幸子		
評価方法	出席状況とレポート課題、パーソナルポートフォリオの提出状況										
履修上の 注意	講座によっては服装の指定や持ち物があるかもしれません。掲示板などの情報・連絡を確認してください。										
テキスト	心にとどくマナーの基本(中北薬品株式会社)接遇研修初回に購入します。										
参考図書											

授業科目	人間力育成Ⅱ	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次	担当者	村松美紀・玉谷直博 増田幸子 他
								職種	
授業の ねらい ・目標	<p>人間力育成の科目では、周囲の人々への気配りや心遣いを大切にし、良好な関係を築くことができるよう基本的な態度を習得することを目的とし段階的に学習をすすめる。</p> <p>1. 集団の中での関係構築や自分自身の感情コントロールを身に付ける。 2. 対象の変化や思いを汲み取るための感性を養う。 1) 対象に良い印象を与える接し方や、おもてなしの精神を学ぶ。 2) 人と関わる職業に就く者として感性を高め、社会人基礎力について理解する。</p>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当	
		1	接遇研修(接遇等)				講義・演習	村松美紀(中北薬品 マナーインストラクター)	
		2	接遇研修(アンガーマネジメント)				講義・演習	村松美紀(中北薬品 マナーインストラクター)	
		3	自己の行動を振り返ろう				講義・演習	増田	
		4	社会人基礎力とは				講義・演習	マイナビ	
		5	自分に必要な力を見つけよう				講義・演習	増田	
		6	自校をアピールするために必要なことは				講義・演習	増田	
		7	学年交流会				講義・演習	増田	
		8	まとめ				講義	増田	
評価方法	出席状況とレポート課題、演習の参加状況								
履修上の 注意	講座によっては現地集合・解散となりますのでオリエンテーションが入る場合があります。掲示板などの情報・連絡を確認をしてください。								
テキスト	1年次接遇研修で購入した冊子『心にとどくマナーの基本(中北薬品株式会社)』を使用します。								
参考図書									

授業科目	人間力育成Ⅲ	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	3年次	担当者	村松美紀 増田幸子 ファイナンシャルプランニング 技能士
								職種	
授業のねらい・目標	<p>人間力形成の科目では、周囲の人々への気配りや心遣いを大切にし、良好な関係を築くことができるよう基本的な態度を習得することを目的とし段階的に学習をすすめる。専門職業人として社会へ踏み出し、自己を高めていくための社会人基礎力を中心としたスキルやを身に付けたい。</p> <p>1. 社会人となるための基礎的な知識・技術・態度を理解する。  1) 信頼関係の形成の基盤となる接遇スキルを高める。  2) 視野を広げ様々な出来事に関心を持つことができる。  3) 社会人基礎力を高め、社会に踏み出し看護師として働くための力や自己コントロールするためのノウハウを身につける</p>								
授業内容および方法	単元のまじり	回	主題				方法	担当	
	伝書読む力・書く力・伝える力	1	看護師に必要な力を身につけよう 社会に関心をよせ、医療・看護の動向を知る 情報共有するために必要な読む力・書く力・伝える力を養う				GW	増田	
	関係構築 シナジー	2	3学年交流会				GW	増田	
	接遇研修	3	接遇研修 より良い人間関係を築くコミュニケーション(電話対応のマナー) アサーティブコミュニケーション(アサーティブとは・コミュニケーションチェック)				講義・演習	村松美紀 (中北薬品 マナーインストラクター)	
		4	アサーティブコミュニケーション(自己のコミュニケーションパターンを知る・アサーティブに伝える時のマインドとスキル)				講義・演習	村松美紀 (中北薬品 マナーインストラクター)	
	社会人基礎力	5	社会人基礎力とは? 自分の課題を知ろう				講義	増田	
		6	社会人基礎力中間評価と課題の修正				講義・GW	増田	
	消費者	7	消費者教育セミナー				講義	ファイナンシャル プランニング 技能士	
	継続業	8	社会人となるための心構えを持とう 看護協会・ナースセンターの事業紹介と就業継続(離職防止)支援に関する事				講義	看護協会 ナースセンター	
評価方法	出席や課題提出状況、演習参加状況、レポート 読む・書く・伝える力向上への取り組み20点 接遇研修20点 社会人基礎力の自己分析と具体的な取り組み姿勢30点 消費者教育セミナー10点 看護協会・ナースセンター10点								
履修上の注意	社会人基礎力評価はパーソナルポートフォリオに綴じて管理しますので準備してください。 実習や受診などで課題提出が遅れる場合は、先に出すか、出せない理由を先に申し出てください。 それ以外の提出遅れは減点となります。								
テキスト	1年次接遇研修で購入した冊子『心にとどくマナーの基本(中北薬品株式会社)』を使用します。								
参考図書	山崎紅, 求められる人材になるための社会人基礎力講座, 日経BP 島田恭子, 人生100年時代を生き抜く力 わかる社会人基礎力, 誠信書房 箕浦トキ子・高橋恵, 看護職としての社会人基礎力の育て方, 日本看護協会出版会								

授業科目	健康とスポーツ	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	瀧本 厚子	
								職種		
授業のねらい・目標	生涯を通じて、健康と豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける 1. スポーツの基本技術を習得して、自己の健康管理や健康の維持増進に役立てる 2. 身体を動かしながら、人の運動生理機能について考察することができるようになること 3. スポーツを通して、仲間との連携を深め、協力し合うなどの社会性や親和性を身につける									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当		
		1	ガイダンス 授業説明 バレーボール 運動の処方について				実技	瀧本		
		2	バレーボール カルボネン法を用いた運動強度の測定				実技	瀧本		
		3	バレーボール 万歩計を用いた消費カロリーの推定				実技	瀧本		
		4	バレーボール 基本のプレー サーブ カット アタック				実技	瀧本		
		5	バレーボール リーグ戦 運動と水分補給について				実技	瀧本		
		6	バレーボール リーグ戦 ケガの予防と応急処置				実技	瀧本		
		7	バドミントン 基本の打法 転倒予防のストレッチ				実技	瀧本		
		8	バドミントン 攻撃の打法 転倒予防のストレッチ				実技	瀧本		
		9	バドミントン ダブルスゲーム 足関節のリハビリについて				実技	瀧本		
		10	バドミントン ダブルスリーグ戦 カルボネン法で測定				実技	瀧本		
		11	バドミントン ダブルスリーグ戦 万歩計で測定				実技	瀧本		
		12	卓球 基本の打法 高齢者の為のリハビリと卓球について				実技	瀧本		
		13	卓球 シングルのゲーム カルボネン法で測定				実技	瀧本		
		14	卓球 シングルのゲーム 万歩計で測定				実技	瀧本		
		15	卓球 ダブルスゲームの進め方 テスト				実技	瀧本		
評価方法	受講態度50% 受講記録とテスト30% 親和性や技術の向上20%									
履修上の注意	スポーツにふさわしい体操着と体育館シューズの着用をお願いします。肩よりも長い髪はまとめて結び、接触により破損したり、人を傷つける可能性のある装飾品は授業中、身につけないように協力してください。受講前後の手洗いとうがいを徹底し、感染症対策をお願いします。									
テキスト	なし									
参考図書	なし									

授業科目	生活科学	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年前期	担当者	増田 啓子 他
								職種	
授業のねらい・目標	<p>授業の到達目標及びテーマ            到達目標:1            豊かな日常生活の在り方・考え方を養うとともに、看護において患者やその家族に生活上のアドバイスのできる能力を養う。            授業の概要            生活組織としての家庭の在り方と家族の発達、ライフサイクルの変化と生活設計、共働き家庭を実現するワーク・ライフ・バランス、生活習慣としての食生活の重要性について実践を交えながら理解する。            自分たちの住む街の災害対策を知り、災害時の課題を考えることができる。</p>								
授業内容 および方法		回	主題				方法	担当	
		1	ガイダンス・生活科学とは				講義	増田	
		2	変化するライフサイクル				講義	増田	
		3	家庭と経済:ライフプラン				講義	増田	
		4	家庭と経済:就業形態と生涯年収				講義	増田	
		5	少子高齢社会と家族・家庭の変化				講義	増田	
		6	生活習慣と学習の自立				講義	増田	
		7	男女が共同で働き子育てできる社会				講義	増田	
		8	生活における栄養の基礎				講義	増田	
		9	健康における食生活の意義				講義	増田	
		10	家族のコミュニケーションのあり方				講義	増田	
		11	静岡県の災害対策、身近な防災対策				講義	防災センター職員	
		12	避難所運営ゲームを通し、災害時の課題を知る				講義・演習	防災センター職員	
		13	家族を支える法				講義	増田	
		14	子育て支援サービスの現状と課題				講義	増田	
	15	講義のまとめ:小テストにより講義の総括をし、生活科学の意義を再確認する				講義	増田		
評価方法	レポート(50%)、小テスト(50%)で評価する。								
履修上の注意									
テキスト	生活支援の基礎を学ぶー介護・福祉・看護実践のための家政学ー 中川英子編著 建帛社								
参考図書									

授業科目	表現と論理		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	小野田貴夫	
									職種		
授業のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の主な二つの様式(モード)、物語モード/論理科学的モードの違いとそれぞれのメリットを理解する</li> <li>・論理的思考にそって、ものごとを表現し、伝えることができるようになる</li> <li>・カンファレンスを想定した議論方法・コミュニケーション力を身につける</li> </ul>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	私はどのように表現しているのか(性格と表現について)					講義	小野田		
		2	思いついたことを語り、まとめる方法(mindmapの描き方)					講義	小野田		
		3	論理的思考とは					講義	小野田		
		4	物語的な表現について					講義	小野田		
		5	論理的な表現について					講義	小野田		
		6	事例検討会・カンファに必要なコミュニケーション方法					講義	小野田		
		7	論理的ピラミッドを使う/論理的ピラミッドを使う					講義	小野田		
		8	論理的問題解決/論理的ツリーを使う					講義	小野田		
		9	意見をまとめ伝えること(論理的思考の実践1)					講義	小野田		
		10	耳を傾ける・理解すること(論理的思考の実践2)					講義	小野田		
		11	抜け・もれ・だぶりの発見と批判(論理的指導の実践3)					講義	小野田		
		12	模擬カンファレンス(事例A)/伝える技術					講義	小野田		
		13	模擬カンファレンス(事例B)/聞く・理解する技術					講義	小野田		
		14	模擬カンファレンス(事例C)/批判と合意に至る技術					講義	小野田		
	15	試験					講義	小野田			
評価方法	講義時の小レポートと最終試験										
履修上の注意	毎回の講義で、A4白紙のコピー用紙を4枚~5枚用意してください。										
テキスト	小野田貴夫著『文章作成一步前』										
参考図書	J.ブルーナー, 意味の復権, ミネルヴァ書房, 2016 M.ホワイト, ナラティブ実践地図, 金剛出版, 2009 P.ブルデュー, 話すということ, 藤原書店, 1993										

授業科目	家族社会学	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	志田 倫子
								職種	
授業のねらい・目標	現代家族の構造と機能を学び、家族の問題を考え、援助につなげられる能力を養う 1. 現代家族の構造と機能を理解する 2. 現代家族のもつ問題について考えることができる								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
		1	社会学とは				講義・演習	志田	
		2	家族をめぐる基本概念 家族システム				講義・演習	志田	
		3	昔の家族				講義・演習	志田	
		4	近代家族①				講義・演習	志田	
		5	近代家族② 現代の家族①				講義・演習	志田	
		6	現代の家族② 男女共同参画社会				講義・演習	志田	
		7	家族と地域				講義・演習	志田	
		8	試験					志田	
評価方法	筆記試験								
履修上の注意									
テキスト	山崎喜比古他, 系看:基礎分野 社会学, 医学書院								
参考図書									

授業科目	英語	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	小原 純子	
								職種		
授業の ねらい ・目標	1. リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能にまたがる活動を通して、英語力を総合的に養成する。 2. 看護の現場で必要とされる語彙や表現を身につける。									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当		
		1	・初診受付① ・症状を伝える基本の表現				講義	小原		
		2	・初診受付② ・初診登録に必要な表現				講義	小原		
		3	・初診受付③ ・保険に関する表現				講義	小原		
		4	・患者を案内する ・各診療科の名称				講義	小原		
		5	・患者の症状を聞く ・風邪症状の表現				講義	小原		
		6	・薬の処方 ・服薬指示の表現				講義	小原		
		7	・診察 ・アレルギー症状の表現				講義	小原		
		8	・外科診療 ・痛みを表す表現				講義	小原		
		9	・問診 ・生活習慣を伝える表現				講義	小原		
		10	・診察前の計測 ・計測に関する表現				講義	小原		
		11	・患者に検査をすすめる ・精密検査に関する表現				講義	小原		
		12	・検査結果を説明する ・数値を伝える表現				講義	小原		
		13	・患者に入院をすすめる ・健康指導の表現				講義	小原		
		14	・入院前の説明を行う ・入院に関する表現				講義	小原		
		15	試験					小原		
評価方法	主に筆記試験で評価する。									
履修上の 注意	授業中の活動に積極的に参加すること。									
テキスト	樋口晶彦・John Tremarco著、 <i>Check-Up! Basic English for Nursing</i> (『基礎から学ぶやさしい看護英語』)、金星堂									
参考図書										

授業科目	国際社会学	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	洪 性旭	
								職種		
授業のねらい・目標	1. 社会学の基礎知識を学び、人間の社会的行為、社会集団、家族、現代社会の成り立ちと諸問題等を理解し、社会に対する自覚を深める 2. 国際社会学という分野と、いくつかの主なテーマについて学ぶ 3. 健康・病気と社会とがどのように関わっているかについて学ぶ									
授業内容および方法	単元のまとまり	回	主題				方法	担当		
		1	1. オリエンテーション 本授業の目標と進め方、「社会」と「社会学」とは何か等				講義	洪		
		2	2. 社会学とは何か(1) 社会学の基礎概念といくつかの理論モデル				講義	洪		
		3	3. 社会学とは何か(2) 「社会的水準」の理解、社会システム論・社会ネットワーク分析など				講義	洪		
		4	4. 社会調査の方法 社会調査の目的と種類、社会調査の読み方・作り方				講義	洪		
		5	5. 健康・病気の社会格差 社会階層と社会格差、格差と健康の関係など				講義	洪		
		6	6. 健康・病気行動 健康・病気行動論と病経験、病の語りなど				講義	洪		
		7	7. ケアと医療 近代社会におけるケアの意味とその変化				講義	洪		
		8	8. 国際社会学の基礎 国際社会学の問題と基礎概念				講義	洪		
		9	9. 国際人口移動の加速化と多様化(1) 国際的な人口移動に関する基礎概念				講義	洪		
		10	10. 国際人口移動の加速化と多様化(2) 日本の難民受け入れについてなど				講義	洪		
		11	11. 多文化社会への発展と反動(1) 社会統合、多文化主義、社会的結合など				講義	洪		
		12	12. 多文化社会への発展と反動(2) 移民と教育・政治、ナショナリズムとネーションなど				講義	洪		
		13	13. 国境を超える集団と精度 国際社会と人の移動など				講義	洪		
		14	14. グローバル社会の諸相 国内外の社会と移民など				講義	洪		
	15	試験					洪			
評価方法	授業への参加度(40%)＋筆記試験(60%)									
履修上の注意	授業中に数回、グループディスカッションや小テストを行います。積極的に参加すること。									
テキスト	山崎喜比古他, 系看:基礎分野 社会学, 医学書院 樽本英樹, よくわかる国際社会学, ミネルヴァ書房									
参考図書	随時、参考資料を授業中に配布します。									

授業科目	生理解剖学 I		単位	生理解剖学 I で1単位	時間数	8時間	講義時期	1年次前期	担当者	フラピエ かおり	
									職種	看護師	
授業のねらい・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>1. 人体の構成と系統について理解する 2. 細胞と臓器と器官との間の関係について理解する</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	人体の構成と区分					講義・演習	フラピエ		
		2	細胞とは					講義	フラピエ		
		3	組織とは					講義	フラピエ		
		4	人体の構成と区分 発表					講義・演習	フラピエ		
		5	試験						フラピエ		
評価方法	レポート及び授業、小テストと定期試験の結果により総合的に判断する。										
履修上の注意											
テキスト	坂井 建雄 編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院										
参考図書	<p>ナースが観る人体 薄井担子(講談社)</p> <p>人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気(村松譲児)</p> <p>クイックマスター 生理解剖学(医学芸術社)</p>										

授業科目	生理解剖学 I	単位	生理解剖学 I で1単位	時間数	8時間	講義時期	1年次前期	担当者	徳山 今日子
								職種	専任教員
授業のねらい・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>1. 視覚・聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚など、人が感じる様々な感覚器の構造と機能を理解する</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
		1	皮膚・体性感覚				講義	徳山	
		2	眼・視覚				講義	徳山	
		3	耳・聴覚・平衡				講義	徳山	
		4	味覚・嗅覚				講義	徳山	
		5	試験					徳山	
評価方法	小テストと筆記試験の結果により総合的に判断する。								
履修上の注意									
テキスト	坂井 建雄 編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院								
参考図書	坂井 建雄 編, 人体の正常構造と機能, 日本医事新報社 高野 實子 編, 解剖生理学, 南山堂 病気が見える vol 12 眼科 vol 13 耳鼻咽喉科 vol 14 皮膚科								

授業科目	生理解剖学 I		単位	生理解剖学 I で1単位	時間数	14時間	講義時期	1年次前期	担当者	川合 陽子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を連続させていくための器官と働きについて理解する</li> <li>2. 女性生殖器の構造と機能について理解する</li> <li>3. 男性生殖器の構造と機能について理解する</li> <li>4. 妊娠の成立と胎児の発生・性分化のメカニズムについて理解する</li> </ol>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	生殖と性、女性生殖器の構造(卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部・会陰・乳房)					講義	川合		
		2	女性の生殖機能:性周期(子宮周期、卵巣周期)視床下部-下垂体-性腺(卵巣)の内分泌調節機構女性ホルモン(エストロゲン・プロゲステロン)の作用機序					講義	川合		
		3									
		4	女性の生殖機能:妊娠の成立と生理的变化、乳腺の発達と乳汁分泌のメカニズム 女性の生殖機能:性周期小テスト					講義	川合		
		5	男性生殖器の構造と機能:精子の形成と成熟、視床下部-下垂体-性腺(精巣)の内分泌調節機構 男性ホルモンの作用機序					講義	川合		
		6	男性の生殖機能小テスト					講義	川合		
		7	胎児の発生:生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤、胎児の血液循環					講義	川合		
		8	試験						川合		
評価方法	小テスト・筆記試験										
履修上の注意	生殖器は個体の生命維持には直接関係しませんが、次の世代の個体を生みだして種を維持する役割を持っています。わたしたちひとりひとは極めて小さい存在であり、いずれ死を迎えますが、人間は生命を引き継ぐ生殖というメカニズムをもって生まれてきた存在です。自分自身の中にある神秘と生殖のメカニズムについて共に学びましょう。										
テキスト	坂井建雄編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院										
参考図書	末岡浩編, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨, 医学書院 今井重矢子編, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧, 医学書院										

授業科目	生理解剖学Ⅱ	単位	生理解剖学Ⅱ で1単位	時間数	12時間	講義時期	1年次 前期	担当者	松浦じゅん
	職種		専任教員						
授業の ねらい ・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>1. 全身の骨は、身体を形作り支え、日常生活の拡大に関する器官であることを理解する 2. 全身の筋肉の構造は、骨格と協働して身体の運動と姿勢をつかさどることを理解する</p>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	骨格とはどのようなものか				講義・GW	松浦	
		2	人体の骨格				講義・GW	松浦	
		3	骨の連結				講義・GW	松浦	
		4	骨格筋・筋の収縮				講義・GW	松浦	
		5	骨格筋収縮の種類と特性				講義・GW	松浦	
		6	運動と代謝				講義・GW	松浦	
		7	試験					松浦	
評価方法	課題の提出状況、筆記試験、小テストを含む								
履修上の 注意	<p>身体の“動き”に関わる単元ですので、体を動かすこともあります。 予習・復習をすること。授業に臨む際に教科書を読んで予習しておくことが望ましい。 看護師国家試験の出題基準に沿って、項目ごと用紙に整理していくこと。</p>								
テキスト	坂井建雄, 系看 専門基礎 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院								
参考図書	<p>増田敦子, 解剖整理をおもしろく学ぶ, 医学芸術社 田中栄, 系看 専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器, 医学書院</p>								

授業科目	生理解剖学Ⅱ		単位	生理解剖学Ⅱ で1単位	時間数	18時間	講義時期	1年次前期	担当者	増田 幸子
			職種							
授業の ねらい ・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を維持していくにあたって、重要な器官であることを理解する</li> <li>2. 呼吸のしくみと役割を理解する</li> <li>3. 心臓のしくみと役割を理解する</li> <li>4. 血管の構造としくみについて理解する</li> <li>5. 体温調節について理解する</li> <li>6. 呼吸と循環のつながりを理解する</li> </ol>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法		担当者	
		1	呼吸器の解剖				講義・GW		増田	
		2	呼吸とは				講義・GW		増田	
		3	ガス交換				講義・GW		増田	
		4	心臓の解剖	小テスト			講義・GW		増田	
		5	冠動脈				講義・GW		増田	
		6	刺激電動系				講義・GW		増田	
		7	心拍とは	小テスト			講義・GW		増田	
		8	血圧				講義・GW		増田	
		9	呼吸と循環	小テスト			講義・GW		増田	
		10	試験						増田	
評価方法	課題の提出状況、筆記試験、小テストを含む									
履修上の 注意	<p>授業の臨む際に教科書を読んで予習しておくことが望ましい          授業で配布したプリント・資料はファイルに付箋をつけて整理・保存しておくこと</p>									
テキスト	<p>坂井建雄、系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院          松村譲児、イラストで学ぶ解剖学、医学書院          田中越郎、イラストで学ぶ生理学、医学書院</p>									
参考図書	<p>坂井建雄、河原克雅、人体の正常構造と機能、日本医事新報社          村松譲児、人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気、サイオ出版          田中越郎、イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき、医学書院</p>									

授業科目	生理解剖学Ⅲ	単位	生理解剖学Ⅲ で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次前期	担当者	小沼 由美
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>&lt;血液・リンパ系&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体液のしくみとそれぞれの役割について理解する</li> <li>2. 血液の構成・血球成分の分類とそれぞれの機能を理解する</li> <li>3. 免疫機能について理解する</li> <li>4. 血液凝固と線溶のしくみについて理解する</li> <li>5. 血液型の種類と適合方法、不適合について理解する</li> </ol>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	体液の仕組みと役割				講義	小沼	
		2	血液の働きと構成				講義	小沼	
		3	赤血球の発生と貧血				講義	小沼	
		4	白血球の働きと免疫機能				講義	小沼	
		5	血液凝固因子と機序、線溶 血液型				講義	小沼	
	6	試験					小沼		
評価方法	<p>事前レポートの内容 筆記試験(小テスト・単元テスト)</p>								
履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に授業範囲を伝えるので、内容をまとめて提出してください。内容に応じて試験の点数に加味します。</li> <li>・2回毎の講義の小テストを行います。小テストで6割未満の点数の場合は、振り返りレポートを提出してもらいます。</li> <li>・単元の最後に単元テストを行います。小テスト・単元テストを合算し、試験の点数とします。</li> </ul>								
テキスト	坂井建雄, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院								
参考図書	<p>黒田純也, 病気がみえる⑤血液, メディックメディア 林正健二, ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学, メディカ出版 松村譲児, イラストで学ぶ解剖学, 医学書院 田中越郎, イラストで学ぶ生理学, 医学書院</p>								

授業科目	生理解剖学Ⅲ	単位	生理解剖学Ⅲ で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次前期	担当者	小沼 由美
								職種	専任教員
授業のねらい・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>&lt;内部環境の調整&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内分泌器官の場所・名称、分泌するホルモンの名称・働きについて理解する</li> <li>2. ホルモン分泌の調整について理解する</li> <li>3. 血液中の糖代謝に関わるホルモンについて理解する</li> <li>4. 血液中のカルシウム代謝に関わるホルモンについて理解する</li> <li>5. 汎適応症候群のしくみについて理解する</li> </ol>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	ホルモンの特性				講義	小沼	
		2	視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺の働き				講義	小沼	
		3	カルシウム調整のしくみ 膵臓の働き				講義	小沼	
		4	副腎皮質、髄質の働き 血圧維持のしくみ				講義	小沼	
		5	汎適応症候群の仕組み				講義	小沼	
		6	試験					小沼	
評価方法	<p>事前レポートの内容 筆記試験(小テスト・単元テスト)</p>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に授業範囲を伝えるので、内容をまとめて提出してください。内容に応じて試験の点数に加味します。</li> <li>・2回毎の講義の小テストを行います。小テストで6割未満の点数の場合は、振り返りレポートを提出してもらいます。</li> <li>・単元の最後に単元テストを行います。小テスト・単元テストを合算し、試験の点数とします。</li> </ul>								
テキスト	坂井建雄, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院								
参考図書	<p>森野勝太郎, 病気がみえる③糖尿病・代謝・内分泌, メディックメディア</p> <p>林正健二, ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学, メディカ出版</p> <p>松村譲児, イラストで学ぶ解剖学, 医学書院</p> <p>田中越郎, イラストで学ぶ生理学, 医学書院</p>								

授業科目	生理解剖学Ⅲ	単位	生理解剖学Ⅲ で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次前期	担当者	小沼 由美
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>&lt;肝臓と胆嚢、体液の調整と尿の生成&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肝臓・胆嚢の構造と機能について理解する</li> <li>2. 泌尿器系に属する器官と役割について理解する</li> <li>3. 腎臓の構造と機能について理解する</li> <li>4. 腎臓とホルモン(体液と血圧の調整)について理解する</li> <li>5. 酸・塩基平衡を調整するメカニズム、アシドーシスとアルカローシスについて理解する</li> </ol>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	肝臓の構造と機能				講義	小沼	
		2	胆嚢の構造と機能				講義	小沼	
		3	腎臓の構造、尿生成のメカニズム				講義	小沼	
		4	排尿器				講義	小沼	
		5	体液の調節				講義	小沼	
		6	試験					小沼	
評価方法	事前レポートの内容 筆記試験(小テスト・単元テスト)								
履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に授業範囲を伝えるので、内容をまとめて提出してください。内容に応じて試験の点数に加味します。</li> <li>・2回毎の講義の小テストを行います。小テストで6割未満の点数の場合は、振り返りレポートを提出してもらいます。</li> <li>・単元の最後に単元テストを行います。小テスト・単元テストを合算し、試験の点数とします。</li> </ul>								
テキスト	坂井建雄, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院								
参考図書	<p>武藤学, 病気がみえる①消化器, メディックメディア</p> <p>池森敦子, 病気がみえる⑧腎・泌尿器, メディックメディア</p> <p>林正健二, ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学, メディカ出版</p> <p>松村譲児, イラストで学ぶ解剖学, 医学書院</p> <p>田中越郎, イラストで学ぶ生理学, 医学書院</p>								

授業科目	生理解剖学Ⅳ	単位	生理解剖学Ⅳ で1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次前期	担当者	塚田佳代美
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.食物の消化、吸収、排泄の器官について理解する</li> <li>2.消化、吸収、排泄のメカニズムについて理解する</li> <li>3.消化、吸収に関与する消化液、消化ホルモン、消化酵素について理解する</li> <li>4.腹膜と臓器の関係について理解する</li> </ol>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
	食と 排泄	1	消化器とは、消化器の全体像、腹膜内器官と後腹膜器官				講義	塚田	
		2	口の構造と機能				講義	塚田	
		3	咽頭と食道の構造と機能、咀嚼と嚥下				講義	塚田	
		4	胃の構造と機能				講義	塚田	
		5	小腸の構造と機能、膵臓の構造と機能				講義	塚田	
		6	栄養素の消化と吸収のメカニズム				講義	塚田	
		7	大腸の構造と機能				講義	塚田	
		8	テスト					塚田	
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意	授業で配布したプリントはファイルに綴じて管理すること。 小テスト実施時、6割未満は再試験となる。								
テキスト	坂井建雄、系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院 松村譲児、イラストで学ぶ解剖学、医学書院 田中越郎、イラストで学ぶ生理学、医学書院								
参考図書	増田敦子、解剖生理をおもしろく学ぶ 医学芸術者 江連和久、看護学生のための解剖生理 メジカルフレンド社 医療情報科学研究所、イメカラ(イメージするカラダのしくみ)肝・胆・膵 メディックメディア 医療情報科学研究所、イメカラ(イメージするカラダのしくみ)消化器 メディックメディア								

授業科目	生理解剖学IV	単位	生理解剖学IV で1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次前期	担当者	宮崎杏子
								職種	専任教員
授業のねらい・目標	<p>人間が日常生活を営み、生きていくためのメカニズムについて理解し、看護を展開する基礎的知識を養う</p> <p>1. 神経系は身体各部の行動や連絡を統率しており、その役割は大きい。人間としての物の考え方、行動は十人十色であり、その人らしさをつくり出しているのもこの神経系であり、この仕組みについて理解する</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
	脳・神経系	1	神経系の概要 ニューロン・情報伝達・神経系の構造				講義	宮崎	
		2	脳の構造 中枢神経と脊髄について				講義	宮崎	
		3	中枢神経 間脳・大脳				講義	宮崎	
		4	末梢神経 脳神経				講義	宮崎	
		5	自律神経 交感神経・副交感神経				講義	宮崎	
		6	脳の高次機能について				講義	宮崎	
		7	脳血管系の構造と機能				講義	宮崎	
		8	試験					宮崎	
評価方法	筆記試験								
履修上の注意	理解度把握のため小テストをします。それを活用して反復学習をし、理解につなげましょう。看護師国家試験の出題基準にそって、項目ごと用紙に整理をしていくこと。								
テキスト	坂井建雄、系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院 松村譲児、イラストで学ぶ解剖学、医学書院 田中越郎、イラストで学ぶ生理学、医学書院								
参考図書	増田敦子、解剖生理をおもしろく学ぶ 医学芸術社 服部光男、全部見える 脳・神経疾患 成美堂出版								

授業科目	生理解剖学 V 演習		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	徳山 今日子 松浦 じゅん	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	生理解剖学 I～IVの知識を統合し、日常生活行動における現象を理解する。 1. 解剖生理学の様々な要素が関連し、人体の機能が成立しているのが理解できる。 2. 事例を通して、人間の生活行動を行うための身体のメカニズムが理解できる。 3. グループ学習における自己の役割を認識し、互恵的な学習に取り組むことができる。 4. 発表を聴講し一連の流れを統合して、事前学習の内容を補足し知識を深めることができる										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	まとめ演習	1	事前発表と事例グループ学習					講義	徳山・松浦		
		2	事例グループ学習					講義	徳山・松浦		
		3	事例グループ学習					講義	徳山・松浦		
		4	事例グループ学習 中間評価					講義	徳山・松浦		
		5	事例グループ学習					発表会	徳山・松浦		
		6	事例グループ学習・発表準備					発表会	徳山・松浦		
		7	事例発表会					グループワーク	徳山・松浦		
		8	試験						徳山・松浦		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	事前課題、演習の参加状況、ピア、発表、学習ファイル完成度、筆記試験で評価										
履修上の注意	4月からの生理解剖学の講義を復習し、国家試験対策学習を行っていきます。演習前に、その学習を活用しながら事例を理解できるように事前学習を行った上で演習に臨んでもらいます。										
テキスト	坂井建雄、系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院 松村譲児、イラストで学ぶ解剖学、医学書院 田中越郎、イラストで学ぶ生理学、医学書院										
参考図書	事例に基づいて必要な参考文献は図書室で検索してください。										

授業科目	栄養生化学		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	寺島 健彦 フラピエかおり	
									職種		
授業のねらい・目標	<p>人間の生命現象を科学的側面から捉え、物質代謝、エネルギー代謝の仕組みについて学習し、疾患の病態を捉えるために役立つ知識を身につける。</p> <p>1. 生体を構成する種々の物質が生体内でどのような働きをしているのかを学ぶ</p> <p>2. 物質が身体の中かでどのように合成され分解されるのか学ぶ</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者			
		1	栄養と生化学・人体と栄養化学・食物と栄養				講義	寺島			
		2	糖質の栄養化学				講義	寺島			
		3	脂質の栄養化学				講義	寺島			
		4	タンパク質の栄養化学				講義	寺島			
		5	エネルギーの栄養化学				講義	寺島			
		6	酵素の栄養化学				講義	寺島			
		7	ビタミン・ミネラルの栄養化学				講義	寺島			
		8	遺伝子の生化学				講義	寺島			
		9	食物摂取基準				講義	寺島			
		10	成長・生活と栄養				講義	寺島			
		11	栄養療法				講義	寺島			
		12	三大栄養素の代謝①				講義	フラピエ			
		13	三大栄養素の代謝②				講義	フラピエ			
		14	酵素の働き(消化と合わせて)				講義	フラピエ			
		15	試験・トピックス				試験・講義	寺島			
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	脊山洋右, 新体系看護学全書 人体の構造と機能(2) 栄養生化学, メヂカルフレンド社										
参考図書											

授業科目	微生物学	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	石井 明	
								職種		
授業のねらい・目標	<p>微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、対処方法について学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌、真菌、原虫、ウイルスなど種々の微生物の性状とその特徴を学ぶ</li> <li>2. 病原体が引き起こす感染症についてその病態、診断、予防及び治療法を学習する</li> <li>3. 病原体の感染に対する生体の免疫反応や防御機構を理解する</li> <li>4. 医療看護の場において病原体の感染から患者、職員及び自分を守る知識を養う</li> </ol>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
		1	微生物総論①				講義	石井		
		2	微生物総論②				講義	石井		
		3	感染と感染症①				講義	石井		
		4	感染と感染症②				講義	石井		
		5	生体防御機構①				講義	石井		
		6	生体防御機構②				講義	石井		
		7	感染症の予防①				講義	石井		
		8	感染症の予防②				講義	石井		
		9	感染症の診断				講義	石井		
		10	感染症の治療				講義	石井		
		11	細胞学各論				講義	石井		
		12	真菌学各論				講義	石井		
		13	ウイルス①				講義	石井		
		14	ウイルス②				講義	石井		
		15	試験 微生物学総括					石井		
評価方法	筆記試験									
履修上の注意	講義時間では教科書の全ての内容を十分に解説できないので、各自、教科書や参考書を参考にして自主的に学習すること									
テキスト	吉田眞一ほか, 系看: 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④微生物学, 医学書院									
参考図書	吉田眞一他編集, 戸田新細菌学[改訂33版], 南山堂 柳原保武・多村憲編集, 微生物学—病原微生物の基礎—[改訂第5版], 南山堂									

授業科目	医療概論	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次前期	担当者	渡邊 貴洋	
								職種	医師	
授業のねらい・目標	医療者として必要な医学の歴史や科学としての医学、医療体制について理解する。さらに現代医療の諸問題を学ぶ。また、病いと健康に関する多くの学問が相互に繋がっていることを理解する。									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法		担当	
		1	医療コミュニケーション 医療と看護の原点				講義		渡邊	
		2	GW 医療の歩みと医療観の変遷 私たちの生活と医療				GW		渡邊	
		3	GW 科学技術の進歩と現代医療の最前線 現代医療の新たな課題				GW		渡邊	
		4	GW発表①②③				発表 講義		渡邊	
		5	GW発表④⑤⑥				発表 講義		渡邊	
		6	GW発表⑦⑧				発表 講義		渡邊	
		7	医療を見つめ直す新しい視点と近未来像				講義		渡邊	
		8	試験						渡邊	
評価方法	筆記試験									
履修上の注意	GWを行う場所(所在)や使用教材を明確にして動くようにしてください。パソコン室や図書室使用には職員への申し出が必要となります。また発表における視聴覚教材の準備や印刷などは学年担当などに相談しながら行うようにしてください。									
テキスト	小泉俊三他, 系看 別巻 総合医療論, 医学書院									
参考図書										

授業科目	病態生理学 I 泌尿器の障害		単位	病態生理学 I で1単位	時間数	6時間	講義時期	1年次後期	担当者	総合医療センター医師	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 泌尿器の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する 2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	腎・泌尿器の解剖生理振り返り 排尿に関連した症状、主な検査(膀胱鏡・経尿道的検査・尿流動態検査等)					講義	医師		
		2	尿路結石症、尿路の通過障害と機能障害(BPH、 神経因性膀胱等) 排尿に関連した感染症					講義	医師		
		3	尿路・性器の腫瘍(治療として尿路変更術等)、 男性性機能障害、排尿障害					講義	医師		
		4	試験						医師		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	今井重矢子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学 I 女性生殖器の 障害		単位	病態生 理学 I で1単位	時間数	6時間	講義時期	1年次後期	担当者	小松 孝之	
									職種	医師	
授業の ねらい ・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 女性生殖器の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する 2. 看護するにあたり必要な基礎的知識を理解する</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	膣(膣炎)・子宮(子宮筋腫・子宮脱・子宮がん・子宮 内膜症) 卵巣(良性・悪性腫瘍)・乳房疾患(乳がん)の病態・ 検査・治療					講義	小松		
		2	月経異常・更年期障害・不妊症					講義	小松		
		3	性感染症・性分化疾患					講義	小松		
		4	試験						小松		
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	末岡浩他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学 I 腎機能の障害		単位	病態生理学 I で1単位	時間数	6時間	講義時期	1年次後期	担当者	野垣 文昭	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 腎機能の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	腎臓の解剖生理振り返り、腎機能検査、腎生検、腎機能障害による症状(浮腫、循環器系による異常、血液の異常等)					講義	野垣		
		2	腎疾患(ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎血管性病変、腎腫瘍等)					講義	野垣		
		3	腎不全と治療、透析療法(HDとPD)腎移植					講義	野垣		
		4	試験						野垣		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	今井亜矢子ほか, 系看 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器, 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学 I 体の支持と運動の障害	単位	病態生理学 I で1単位	時間数	12時間	講義時期	1年次後期	担当者	佐伯 公三
								職種	医師
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 骨・筋系の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する 2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>								
授業内容および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	運動器総論、骨折、脱臼、腫瘍・腱・肩疾患、細菌感染				講義	佐伯	
		2	神経(脊髄損傷、頸椎疾患、腰椎疾患、末梢神経疾患)				講義	佐伯	
		3	関節(関節リウマチほか、変形性関節症、人工関節)				講義	佐伯	
		4	フレイル、サルコペニア、ロコモ、骨粗鬆症				講義	佐伯	
		5	高齢者に多い骨折(大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折)、腰痛				講義	佐伯	
		6	血栓症、コンパートメント症候群、ギプス/ギプス巻き演習				講義、演習	佐伯	
		7	試験					佐伯	
評価方法	筆記試験								
履修上の注意	第6回「ギプス固定演習」は参考図書を学習して参加してください。								
テキスト	田中栄他 鳥羽研二他	系統別看護学講座 系統別看護学講座	専門分野 専門分野	成人看護学⑩ 老年看護	運動器 病態・疾患論	医学書院 医学書院			
参考図書	山本恵子監修 写真でわかる整形外科看護アドバンス インターメディカ								

授業科目	病態生理学Ⅱ 呼吸の障害		単位	病態生理学Ⅱ で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次後期	担当者	小林 淳	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 呼吸の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	呼吸器疾患 肺炎 気管支鏡 呼吸不全 呼吸窮迫症候群					講義	小林		
		2	呼吸器疾患 喘息					講義	小林		
		3	COPD					講義	小林		
		4	肺がん 自然気胸 胸腔穿刺					講義	小林		
		5	肺結核、非結核性抗酸菌症					講義	小林		
		6	試験						小林		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	浅野浩一郎他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器, 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学Ⅱ 消化器の障害		単位	病態生理学Ⅱ で1単位	時間数	14時間	講義時期	1年次後期	担当者	松下 雅広	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 消化器の障害の病態、臨床検査、診断、内科的治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	消化器の構造と機能をふまえた病態生理① 食道 胃・十二指腸 嚥下困難 おくび・胸やけ 嘔気・嘔吐					講義	松下		
		2	消化器の構造と機能をふまえた病態生理①小腸 大腸 腹痛 吐血・下血 下痢 便秘					講義	松下		
		3	消化器の構造と機能をふまえた病態生理② 肝臓 胆道系 腹痛 食欲不振					講義	松下		
		4	消化器の構造と機能をふまえた病態生理② 肝臓 胆道系 腹水 黄疸 肝性脳症					講義	松下		
		5	上部消化管 食道の疾患 胃・十二指腸の疾患 左記検査・治療					講義	松下		
		6	下部消化管 腸および腹膜疾患 左記検査・治療					講義	松下		
		7	胆肝膵疾患 左記検査・治療					講義	松下		
		8	試験						松下		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	南川雅子 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学Ⅱ 口腔・味覚の 障害		単位	病態生 理学Ⅱ で1単位	時間数	6時間	講義時期	1年次後期	担当者	田中 四郎 松永 香織	
										職種	医師・歯科衛生士
授業の ねらい ・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 口腔・味覚の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する 2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	齲歯、歯周病、顎顔面の先天異常と変形、外傷、口腔粘膜疾患					講義	田中		
		2	炎症 嚢胞性疾患、腫瘍(悪性腫瘍・良性腫瘍)唾液腺の疾患、神経性疾患、顎関節疾患					講義	田中		
		3	口の役割、口腔ケアの目的など					講義	松永		
		4	試験						田中		
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	渋谷絹子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑮ 歯・口腔 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学Ⅲ 脳・神経の障害		単位	病態生理学Ⅲ で1単位	時間数	14時間	講義時期	1年次後期	担当者	浦野 裕美子 山形 桂司	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 脳神経の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	脳出血 クモ膜下出血					講義	浦野		
		2	脳梗塞					講義	浦野		
		3	脳腫瘍(下垂体腫瘍)					講義	浦野		
		4	頭部外傷 治療					講義	浦野		
		5	髄膜炎、脳膿瘍					講義	山形		
		6	パーキンソン 脱髄 ギランバレー症候群 筋ジス					講義	山形		
		7	認知症 アルツハイマー					講義	山形		
			試験						浦野・山形		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	井手隆文他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学Ⅲ 循環の障害		単位	病態生理学Ⅲ で1単位	時間数	12時間	講義時期	1年次後期	担当者	青山 武 金森範夫 蔦野 陽一	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 循環器系の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	先天性心疾患・心内膜炎・心臓弁膜症・弁置換術					講義	青山		
		2	心不全の病態と治療②(心エコー・X-p・薬物療法)					講義	青山		
		3	不整脈・心マッサージ・除細動器・ペースメーカー・ショック					講義	蔦野		
		4	高血圧・動脈硬化・閉塞性動脈硬化症・静脈瘤					講義	蔦野		
		5	循環の異常①(狭心症・心筋梗塞・心カテ・血栓溶解療法・血栓除去術・CABG)					講義	金森		
		6	循環の異常②(大動脈瘤・解離)					講義	金森		
		7	試験						青山・金森・蔦野		
	単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	吉田俊子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学Ⅲ 耳鼻・咽喉の 障害		単位	病態生 理学Ⅲ で1単位	時間数	4時間	講義時期	1年次後期	担当者	山河 和博	
									職種	医師	
授業の ねらい ・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 耳鼻咽喉の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する 2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	耳鼻咽喉の検査と治療 耳の疾患(中耳炎・メニエール病・突発性難聴・顔面神経麻痺)					講義	山河		
		2	口の疾患(齶口瘡・口唇ヘルペス・舌がん) 鼻の疾患(扁桃炎・副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎) 咽頭の疾患(咽頭がん) 喉頭の疾患(喉頭がん)					講義	山河		
		3	試験						山河		
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	小松浩子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学Ⅳ 皮膚の障害		単位	病態生理学Ⅳ で1単位	時間数	4時間	講義時期	1年次後期	担当者	総合医療センター医師	
										職種	医師
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 皮膚の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	真皮・皮下脂肪織・汗腺・毛髪の疾患など					講義	医師		
		2	紅斑・紫斑など、褥瘡・脂漏性角化症・日光角化症・基底細胞癌					講義	医師		
		3	試験						医師		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	渡辺晋一他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学IV 視覚器の障害		単位	病態生理学IV で1単位	時間数	6時間	講義時期	1年次後期	担当者	原 健太朗 見崎 陽花	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <p>1. 視覚器の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</p> <p>2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	目の疾患の理解①屈折異常・調節異常・弱視・色覚異常など					講義	原		
		2	目の疾患の理解②網膜・硝子体・網膜の疾患・白内障・緑内障など					講義	原		
		3	目の疾患の理解③眼科で行われる検査について					講義	見崎		
		4	試験						原		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	大鹿哲郎、平井明美 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学③ 眼 医学書院										
参考図書											

授業科目	病態生理学IV 内分泌・代謝 の障害	単位	病態生 理学IV で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次後期	担当者	小林 誠之
								職種	医師
授業の ねらい ・目標	人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ 1. 内分泌系の障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する 2. 看護するにあたり病態の変化を予測し、対応できる基礎的知識を理解する								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	内分泌・代謝の生理・解剖、症状とその病態生理 視床下部・下垂体疾患(クッシング病、下垂体腫瘍、 巨人症等)				講義	小林	
		2	甲状腺疾患(橋本病、バセドウ病、甲状腺機能低下 症、甲状腺腫瘍) 副甲状腺疾患(原発性・続発 性副甲状腺機能亢進症、低下症等)				講義	小林	
		3	副腎疾患(原発性アルドステロン症、クッシング症候 群、アジソン病) 糖尿病(疾患の概要、分類、 検査、診断、コントロールの指標)				講義	小林	
		4	糖尿病の治療(食事・運動・薬物療法)合併症(急 性・慢性)				講義	小林	
		5	脂質異常、メタボリックシンドローム、尿酸代謝異常				講義	小林	
		6	試験					小林	
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意									
テキスト	黒江ゆり子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院								
参考図書									

授業科目	病態生理学Ⅳ 血液・リンパ・アレルギー系の障害		単位	病態生理学Ⅳ で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次後期	担当者	柳田 宗之	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>人間が健康障害をおこした時の病態を理解し、看護に応用できるように学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液・リンパの障害の病態、臨床検査、治療について理解する</li> <li>2. 免疫系の障害・感染による障害の病態、臨床検査、診断、治療について理解する</li> <li>3. 看護するにあたり病態の予測をし、対応できる基礎的知識を理解する</li> </ol>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者			
		1	血液の生理と造血の仕組み、検査(骨髄穿刺、出血傾向検査等) 治療(化学療法、輸血、骨髄移植等)				講義	柳田			
		2	赤血球系の異常(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血等) 白血球系の異常(無顆粒球症、伝染性単核球症)				講義	柳田			
		3	造血器腫瘍(急性白血病、MDS,CML,CLL、ATLL,)、悪性リンパ腫、骨髄腫)出血性疾患(ITP,TTP,血友病、DIC)				講義	柳田			
		4	免疫とアレルギーのしくみ、検査(自己抗体検査、アレルギー検査)アレルギー疾患、アナフィラキシー				講義	柳田			
		5	膠原病、自己免疫疾患とその機序、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群、後天性免疫不全症候群				講義	柳田			
		6	試験					柳田			
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	<p>飯野京子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院          岩田健太郎他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院</p>										
参考図書											

授業科目	病態生理学V	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次前期	担当者	押尾 智子 増田 幸子他	
								職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>1年次に学習した病態生理学の内容を、実際の人間に起きている現象としてとらえ、疾患の状況を理解し、看護につなげることができる基礎的能力を養う</p> <p>1. 疾患の成り立ちが、解剖生理とつながるように学習する  2. 対象の置かれている疾患の状況を正確に把握し、病態関連図を表現できる  1) 健康障害を持つ対象の疾患を解剖学的・生理学的に理解できる  2) 対象の置かれている状況を把握するための情報が理解できる  3) 得られた情報から解釈をし、病態関連図として表現できる</p>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当		
		1	課題に対するプレテスト、事例紹介				講義	押尾・増田他		
		2	グループワーク1				G.W	押尾・増田他		
		3	グループワーク2				G.W	押尾・増田他		
		4	グループワーク3				G.W	押尾・増田他		
		5	グループワーク4				G.W	押尾・増田他		
		6	発表1				演習	押尾・増田他		
		7	発表2				演習	押尾・増田他		
		8	試験					押尾		
評価方法	課題に対するプレテストと最終筆記試験、グループワークへの参加状況を総合して評価します。									
履修上の注意	事前学習を十分に行い参加すること									
テキスト	坂井 建雄編 系統別看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 川村雅文他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 医学書院 吉田俊子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院 飯野京子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 南川雅子 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 吉岡成人他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 井手隆文他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 大東貴志他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 泉川公一他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院									
参考図書										

授業科目	病態生理学VI	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	3年次後期	担当者	金城・蔦野・菅沼 和田・田口・亀山 増田
								職種	医師・専任教員
授業のねらい・目標	<p>机上での学習と実習での学習を統合し、学生個々が知識として病態生理学を今後の看護に活かしていくことができるよう基礎的知識を養う。</p> <p>1. 疾患の成り立ちが、解剖生理学とつなげ、検査・治療を含めて理解できる  2. 対象の置かれている疾患の状況を正確に把握し、病態の理解・検査・治療から看護を深めることができる  1) 健康障害を持つ対象の疾患を解剖学的・生理学的に理解でき、診断のための検査・治療とつなげることができる。  2) 対象の置かれている状況を情報から理解し、病態に関する問題、看護に関する問題を解くことができる。</p>								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
		1	脳・神経外科の疾患				講義・演習	金城	
		2	脳・神経外科の疾患(画像判断を含む)				講義・演習	金城	
		3	循環器の疾患				講義・演習	蔦野	
		4	薬物療法				講義・演習	菅沼	
		5	外科的療法				講義・演習	和田	
		6	精神科疾患				講義・演習	田口	
		7	臨床検査				講義・演習	亀山	
		8	試験・まとめ					増田	
評価方法	課題に対するプレテストと最終筆記試験、グループワークへの参加状況を総合して評価します。								
履修上の注意	事前学習を十分に行い参加すること								
テキスト	坂井 建雄編 系統別看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 浅野浩一郎他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器, 医学書院 吉田俊子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院 飯野京子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 南川雅子 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 黒江ゆり子他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 井手隆文他 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 北島政樹 系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 吉岡光弘 系統別看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学 医学書院 岩崎弥生他 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社								
参考図書									

授業科目	診断と検査 (放射線検査)	単位	診断と 検査で 1単位	時間数	4時間	講義時期	1年次後期	担当者	畑 利浩
								職種	診療放射線技師
授業の ねらい ・目標	医療における放射線医学の役割と、放射線防護の基本について理解する								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	放射線総論、放射線医療の役割と歴史 X線検査				講義	畑	
		2	放射線防護の基本 防御具装着演習				講義・演習	畑	
		3	試験					畑	
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意									
テキスト	尾尻博也他, 系看:別巻 臨床放射線医学, 医学書院								
参考図書									

授業科目	診断と検査 (臨床検査)	単位	診断と 検査で 1単位	時間数	11時間	講義時期	1年次後期	担当者	亀山 拓哉 栗田 泉 甲賀 香子 原田 雅章 八木 文悦
								職種	臨床検査技師
授業の目 標・ねらい	1. 各種の症状やデータをもとに健康障害を診断するプロセスについて理解し、看護に応用で きるように学ぶ。 2. 医学における診断のプロセスを理解する。								
授業内容 および方 法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
	基礎	1	臨床検査の基礎 血液検査①				講義	亀山	
	血液	2	血液検査②				講義	原田	
	一般	3	一般検査、微生物検査				講義	栗田	
	病理	4	病理検査、内分泌検査				講義	甲賀	
	生理	5	生体検査				講義	八木	
		6	試験					亀山	
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意									
テキスト	奈良信雄 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院								
参考図書									

授業科目	治療学 I (薬物療法)	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	菅沼 博茂
	職種		薬剤師						
授業のねらい・目標	疾病の回復を促進する治療の基礎知識を学ぶ 1. 疾病に対して有効に作用する薬物の基礎知識を学び、看護に応用できるように理解する 2. 治療にかかわる他職種の役割を理解する								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	薬理学とは何か				講義	菅沼	
		2	看護業務に必要な薬の知識(処方せん等)、薬剤管理				講義・演習	菅沼	
		3	漢方医学の基礎知識				講義	菅沼	
		4	薬物代謝				講義	菅沼	
		5	相互作用				講義	菅沼	
		6	関節リウマチ治療薬(ステロイド等)				講義	菅沼	
		7	糖尿病薬について				講義	菅沼	
		8	薬理学の基礎				講義	菅沼	
		9	抗感染症薬①				講義	菅沼	
		10	抗感染症薬②				講義	菅沼	
		11	消毒薬 濃度計算				講義	菅沼	
		12	抗がん薬 免疫治療薬				講義	菅沼	
		13	抗アレルギー薬 抗炎症薬				講義	菅沼	
		14	末梢神経系作用薬				講義	菅沼	
		15	試験・まとめ					菅沼	
単元ごとは順不同です。									
評価方法	筆記試験								
履修上の注意	第2回の薬剤管理では薬剤暴露予防の演習を行います。ユニフォームで参加してください。								
テキスト	吉岡充弘, 系看 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学, 医学書院 ナーシング・サプリ編集委員会編, イメージできる臨床薬理学, MCメディカ出版 浦部晶夫ほか編, 今日の治療薬, 南江堂								
参考図書									

授業科目	治療学Ⅱ (麻酔療法)		単位	治療学Ⅱで合わせて1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次前期	担当者	白石 義人	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>麻酔に対する専門的知識を学び、術中、術後の生体反応の変化を理解し、周手術期にある患者の看護を実施するための基礎知識を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 麻酔の種類と特徴、主な薬剤を学ぶ</li> <li>2. 手術中のモニタリングの特徴、目的を学ぶ</li> <li>3. 手術中に起こりうる合併症、生体反応の変化とその管理を学ぶ</li> </ol>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	麻酔とは					講義	白石		
		2	全身麻酔 (麻酔薬、術前検査について)					講義	白石		
		3	全身麻酔 (術中管理、術後管理、合併症について)					講義	白石		
		4	局所麻酔 (脊椎麻酔、くも膜下麻酔、硬膜下麻酔)					講義	白石		
		5	術中の呼吸管理					講義	白石		
		6	手術療法と体液管理①					講義	白石		
		7	手術療法と体液管理②					講義	白石		
		8	試験						白石		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	矢永勝彦, 系看:別巻, 臨床外科看護総論, 医学書院										
参考図書											

授業科目	治療学Ⅱ (外科療法)		単位	治療学Ⅱで合 わせて1 単位	時間数	9時間	講義時期	2年次後期	担当者	和田英俊 野澤雅之 渡邊貴洋 植田 猛	
										職種	医師
授業の ねらい ・目標	<p>消化器疾患を中心とした手術療法を学び、周手術期にある患者の看護を実施するための基礎知識を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法の基礎知識を学ぶ</li> <li>2. 低侵襲手術の専門的知識を学び、患者のQOLについて考えることができる</li> <li>3. 解剖生理学を踏まえ各疾患の術式、術式に特徴的な合併症、予防について理解を深めることができる</li> </ol>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	外科総論、腫瘍、癌の進行、乳癌、胆石症					講義	植田		
		2	食道癌、胃癌、ロボット手術、腹腔鏡下手術					講義	渡邊		
		3	小腸腫瘍、大腸癌、腸閉塞、穿孔					講義	野澤		
		4	膵臓癌、肝臓癌					講義	和田		
		5	試験						和田		
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	北島政樹, 系看:別巻 臨床外科看護各論, 医学書院										
参考図書											

授業科目	治療学Ⅱ (放射線療法)	単位	治療学Ⅱで合 わせて1 単位	時間数	6時間	講義時期	2年次前期	担当者	塚本 慶亮 齋藤 亮
								職種	医師
授業の ねらい ・目標	医療従事者として必要な放射線に対する専門的知識を学ぶ 1. 疾患に対して有効に作用する放射線検査・診断の基礎知識を学ぶ 2. 放射線治療の基礎知識を学ぶ								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	CT、MRI、超音波 検査・診断				講義	塚本	
		2	核医学、IVR・血管造影 検査・診断				講義	塚本	
		3	放射線治療総論・各論				講義	齋藤	
		4	試験					塚本	
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意									
テキスト	尾尻博也他, 系看:別巻 臨床放射線医学, 医学書院								
参考図書									

授業科目	治療学Ⅲ (リハビリテーション療法)		単位	治療学Ⅲで合わせて1単位	時間数	8時間	講義時期	2年次前期	担当者	中野 寛之 薩川 徹也	
	職種	理学療法士 作業療法士									
授業のねらい・目標	疾病の回復を促進する治療の基礎知識を学ぶ 1. リハビリテーションの概念と治療に関わる他職種の役割について理解する 2. リハビリテーションの技術を学び、看護に応用できるように理解する										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	リハビリテーション療法とは					講義・演習	中野		
		2	運動障害とリハビリテーション療法					講義・演習	中野		
		3	中枢神経系の障害とリハビリテーション療法					講義・演習	薩川		
		4	自助具(杖の種類と使い方)、移動動作練習(歩行介助含)					講義・演習	薩川		
				試験						中野・薩川	
評価方法	筆記試験										
履修上の注意	実習室で動きの演習をするため、運動のできる服装を指示する事があります。										
テキスト	原 三紀子ほか 系看:別巻リハビリテーション看護 医学書院										
参考図書											

授業科目	治療学Ⅲ (食事療法)	単位	治療学Ⅲで合 わせて1 単位	時間数	7時間	講義時期	2年次前期	担当者	水野 直子
								職種	管理栄養士
授業の ねらい ・目標	疾病の回復を促進する治療の基礎知識を学ぶ 1. 人々の健康生活や疾病の回復のための栄養・食事の基礎的知識を学び、看護に応用できるように理解する 2. 治療に関わる他職種役割を理解する								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	病態栄養について 消化器疾患の食事療法				講義	水野	
		2	術前・術後の栄養管理、循環器疾患の食事療法				講義	水野	
		3	腎・泌尿器疾患、糖尿病の食事療法				講義	水野	
		4	試験					水野	
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意									
テキスト	足立香代子ほか, 系看 別巻 栄養・食事療法, 医学書院 新成分表編集委員会編, 新食品成分表FoodS, 東京法令出版株式会社								
参考図書	日本糖尿病学会編・著, 糖尿病食事療法のための食品交換表, 日本糖尿病協会・文光堂								

授業科目	医療倫理	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	村松 妙子
								職種	
授業のねらい・目標	医療倫理の基礎知識と具体的な事例を学び、倫理的に重要な選択に迫られた際に看護師としてどのように行動するべきなのかを考えられるようになること、また、そうした問題について積極的に議論できる力を身に着けることを目標とします。								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当	
	1	1	ガイダンス・医療倫理とは				講義	村松	
		2	倫理原則および看護実践上の倫理的概念 (アドボカシー、責務、協力、ケアリング)				講義	村松	
		3	医療倫理をめぐる歴史的変遷				講義	村松	
		4	インフォームド・コンセント				講義	村松	
		5	現代医療における倫理的問題①医療資源の配分				講義	村松	
		6	現代医療における倫理的問題①医療資源の配分(GW)				講義	村松	
		7	現代医療における倫理的問題②身体拘束				講義	村松	
		8	現代医療における倫理的問題②身体拘束(GW)				講義	村松	
		9	現代医療における倫理的問題③DNAR、治療の差し控え				講義	村松	
		10	現代医療における倫理的問題③DNAR、治療の差し控え(GW)				講義	村松	
		11	倫理的問題へのアプローチ 事例検討				講義	村松	
		12	倫理的問題へのアプローチ 事例検討・発表会資料作成				講義	村松	
		13	倫理的問題へのアプローチ 発表会・全体討議				講義	村松	
		14	倫理的課題へのアプローチ 発表会・全体討議				講義	村松	
		15	試験				試験	村松	
評価方法	筆記試験、振り返りシート、グループワーク、授業への参加度を総合的に評価する。 *2/3以上の出席を筆記試験の受験要件とする。								
履修上の注意	積極的にグループワークに参加し、質問・ディスカッションする姿勢を持ってください。								
テキスト	宮坂道夫、『系統看護学講座 別巻 看護倫理』, 医学書院, 2026年								
参考図書									

授業科目	公衆衛生学		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	朝比奈 彩	
									職種	医師	
授業のねらい・目標	<p>疾病を予防し、人々が安全に健康生活を保持増進するための諸条件と社会における組織的な予防保健活動を学ぶ</p> <p>1. 健康生活の基礎となる生活環境について理解する  2. 衛生行政について理解する  3. 地域社会における疾病の予防活動について理解する</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	公衆衛生の意義と目的 健康とは					講義	朝比奈		
		2	集団の健康をとらえるための手法					講義	朝比奈		
		3	感染症とその予防対策					講義	朝比奈		
		4	食中毒					講義	朝比奈		
		5	地域における公衆衛生の実践					講義	朝比奈		
		6	学校と健康					講義	朝比奈		
		7	職場と健康 介護保険、労働安全衛生、					講義	朝比奈		
		8	試験						朝比奈		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	神馬征峰ほか, 系看専門基礎 健康支援と社会保障制度②公衆衛生, 医学書院 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会										
参考図書											

授業科目	社会福祉概論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	佐々木隆志
								職種	
授業のねらい・目標	私たちの日常生活のなかで、社会福祉や社会保障がどのように機能し、国民の生活を支えているかについて理解する。また、非正規労働者の増加、貧困問題、生活困窮、ひとり親世帯や8050問題など、現代社会の構造から生み出されている各種の生活課題について、誰が、どこで、どのような支援を行っているかについて理解する。社会福祉と社会保障の関係について理解する。社会福祉サービスの実施機関及び社会福祉と保健・医療との連携について理解する。								
授業内容および方法	単元のまとまり	回	主題				方法	担当	
		1	社会保障の概念と社会福祉の法体系について				講義	佐々木	
		2	社会福祉法の定義と福祉サービスの仕組みについて				講義	佐々木	
		3	児童・障害・高齢者問題の実態について(ビデオ活用)				講義	佐々木	
		4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向について				講義	佐々木	
		5	現代社会の変化 人口の変化について				講義	佐々木	
		6	地域社会の変化について				講義	佐々木	
		7	経済状況の変化 雇用状況の変化について				講義	佐々木	
		8	社会保障・社会福祉の動向について				講義	佐々木	
		9	医療保障制度の構造と体系				講義	佐々木	
		10	健康保険と国民健康保険について				講義	佐々木	
		11	介護保険制度創設の背景と介護保障のしくみ				講義	佐々木	
		12	所得保障制度のしくみ 年金保険制度のしくみ				講義	佐々木	
		13	障害者の定義と実態、障害者の雇用問題について				講義	佐々木	
		14	児童・家庭福祉の事態とサービスの仕組みについて				講義	佐々木	
		15	試験 生活保護制度のしくみ まとめ					佐々木	
評価方法	①定期試験の実施、②講義中の小課題の取り組み、③出席状況、④課題提出物、①～④を総合し評価する。								
履修上の注意	教科書、ノート、筆記用具学ぶ姿勢、集中力が将来を左右します。日々の努力と健康管理が大切です								
テキスト	福田素生ほか, 系統 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉, 医学書院								
参考図書	厚生指針 増刊, 国民福祉の動向 厚生労働統計協会, 各年度版 厚生指針 増刊, 国民衛生の動向 厚生労働統計協会, 各年度版								

授業科目	社会福祉各論		単位	2単位	時間数	30時間	講義時期	3年次後期	担当者	増田 佐々木 川島 杉本 菅原 市川 米澤 他	
									職種	保健師・社会福祉士・専任教員	
授業のねらい・目標	保健医療福祉の現状と課題を学び、各職種の活動の実際と職種の役割を知る。地域でくらす様々な人々の生活する中での課題を知り、どのような制度が関連し支援されているのかを理解することができる。										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	MSWの活動の実際（病院内における活動）病院で働く立場から、社会の中での課題をどう考えているのか。（医療費支払いの現状等）					講義	川島知記 (病院MSW)		
		2	低所得者に対する支援と生活保護制度 活動の実際					講義	(市役所福祉課)		
		3	権利擁護と成年後見制度の実際 活動の実際と課題 島田市の状況 社協について 生活困窮者自立支援事業					講義	杉本優子 (島田市社会福祉協議会)		
		4	障害者の相談支援 仕組み/内容/現状/島田市基幹相談支援センター活動の実際					講義	菅原小夜子 (こころ)		
		5	障害者の就労支援と課題 一般就労(企業就労)・福祉的就労					講義	市川武 (空と大地と)		
		6	地域包括支援センターの活動の実際 相談内容や支援内容/一人暮らしの高齢者や高齢者2人暮らしの家庭での課題など					講義	(包括ケア推進課保健師)		
		7	母子・児童家庭福祉（育ちの環境としての家庭生活の現状、児童に関わる法と施策、子どもの人権と貧困対策、支援の実際）					講義	保健師		
		8	障害児における「特殊教育から特別支援教育」への転換 就学期の横の連携だけでなくライフサイクル全体を見据えた支援の在り方や実際について					講義	(島田市肢体不自由児の会～リアンの会～代表)		
		9～12	各制度の理解を深め活用の仕方を学ぶ					講義・GW・演習	増田 幸子		
		13	社会保障の概念と社会福祉の法体系・各制度の定義と福祉サービスの仕組み①					講義	佐々木隆志		
		14	社会保障の概念と社会福祉の法体系・各制度の定義と福祉サービスの仕組み②					講義	佐々木隆志		
		15	最終試験・まとめ					講義・GW	増田 幸子		
	評価方法	出席状況・課題提出物・最終テストで評価									
	履修上の注意										
テキスト											
参考図書	福田素生ほか, 系看 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉, 医学書院										

授業科目	看護と法律		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	国京 則幸	
									職種		
授業のねらい・目標	<p>法がどのように社会で機能しているのか、また、看護と法との関連性を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護業務に携わる人は豊かな人権感覚をもつ必要があることを理解する</li> <li>2. 看護業務に携わる人の身分や業務に関する法を理解する</li> <li>3. 健康な生活を維持するために必要な法を理解する</li> </ol>										
授業内容および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	看護と法、法律					講義	国京		
		2	看護師の法的措置					講義	国京		
		3	看護師の法的措置(業務)					講義	国京		
		4	民事責任の体系①					講義	国京		
		5	民事責任の体系②					講義	国京		
		6	刑事責任の体系①					講義	国京		
		7	刑事責任の体系②					講義	国京		
		8	医療の提供					講義	国京		
		9	医療保障(健康保険)					講義	国京		
		10	医療保障(国民保険)					講義	国京		
		11	医療保障					講義	国京		
		12	介護保険					講義	国京		
		13	関係法規①					講義	国京		
		14	関係法規②					講義	国京		
	15	試験						国京			
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	森山幹夫, 系看:専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④看護関係法令, 医学書院										
参考図書											

授業科目	臨床心理学		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次前期	担当者	竹田 真実	
									職種	臨床心理士	
授業のねらい・目標	1. 臨床心理学の基礎を学び、心理的援助と心理アセスメントの実際について理解する 2. 医療場面での患者及び看護職者の心理について理解を深める 3. 心理療法とカウンセリングの理論と技法を学び、多職種間で協力して看護実践できる力を身につける 4. 気持ちを伝える力、受け止める力を演習を通して身につける										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	患者の理解、看護職者の理解					講義	竹田		
		2	臨床心理学の基礎 心理的援助					講義・演習	竹田		
		3	面接の方法(カウンセリングの技法)					講義・演習	竹田		
		4	心理アセスメント					講義・演習	竹田		
		5	カウンセリングと心理療法 (精神分析・PCA)					講義・演習	竹田		
		6	カウンセリングと心理療法 (交流分析・認知行動療法)					講義・演習	竹田		
		7	カウンセリングと心理療法(家族療法・グループ)					講義・演習	竹田		
		8	試験						竹田		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	長田久雄 看護学生のための心理学 医学書院										
参考図書											

授業科目	基礎看護学 原論		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	赤堀夏海	
									職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	看護の概念を捉え、保健医療福祉の中での看護の役割と責務、専門性について学ぶ 1. 看護の変遷を通して看護の概念、看護の役割を理解できる 2. 健康の概念を広く捉えて理解できる 3. 看護の対象である人間の特徴と、生活者としての人間を理解できる 4. 看護の機能と役割について理解できる										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	看護学を学ぶ姿勢・看護の定義					講義	赤堀		
		2	看護とは何か					講義	赤堀		
		3	看護の歴史的変遷、職業としての看護の確立					講義	赤堀		
		4	看護の対象である人間について					講義	赤堀		
		5	健康とは何か					講義	赤堀		
		6	国民の健康について統計から理解する					講義	赤堀		
		7	看護実践のための理論的根拠について					講義	赤堀		
		8	看護実践のための理論的根拠についてグループワーク1					講義・GW	赤堀		
		9	看護実践のための理論的根拠についてグループワーク2					講義・GW	赤堀		
		10	グループ発表1					講義	赤堀		
		11	グループ発表2					講義	赤堀		
		12	看護における倫理について					講義	赤堀		
		13	医療安全と医療の質保証について					講義	赤堀		
		14	看護をめぐる制度と政策について					講義	赤堀		
		15	試験、まとめ						赤堀		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験、グループワーク										
履修上の 注意	毎回授業目標に沿ったまとめを各自で行い、質問等も記入してもらいます。積極的に取り組んでください。グループワークも主体的に取り組んでください。										
テキスト	茂野香おる他著, 系看専門 看護学概論, 医学書院 ヴァージニア・ハンダーソン著, 湯楨ます・小玉香津子訳, 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版 城ヶ端初子著, 誰でも分かる看護理論, サイオ出版 田村やよひ著, 私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法, 日本看護協会出版会 東京医科大学看護専門学校編, よくわかる看護職の倫理綱領, 照林社										
参考図書	薄井坦子他訳, フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書 看護であること看護でないこと, 現代社 長谷川浩他訳; トラベルビー人間対人間の看護, 医学書院										

授業科目	基礎看護技術 I-1	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	中島 太志 増田 幸子	
								職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	すべての看護行為に共通する基本的な看護技術を学ぶ 1. 対象を全人的に把握し、日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 2. 健康障害を持つ対象を理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1) フィジカルイグザミネーションに関する基礎知識と手技を理解できる 2) 観察の視点と必要性を学ぶとともに、記録の書き方・記載する内容・報告に関する基礎知識を理解でき、技術と態度を学習できる 3) 学習支援における看護の役割を理解し、対象のセルフケア能力の向上を支援するために必要な知識・技術・態度を学ぶ 4) 事例に対する学習支援計画書、教材作成を行いロールプレイを通して学習支援の基礎を学ぶ									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者		
	学習支援	1	患者教育・指導から学習支援へ				講義	中島		
		2	学習支援の意義と健康状態の変化に伴う学習支援				講義	中島		
		3	事例に基づいて学習支援のテーマ目標、必要な教材検討				GW	中島		
		4	目標から必要な支援内容を検討し、資料作成(栄養指導、生活指導ほか)				GW	中島		
		5	学習支援計画書に基づいて教材を使用しロールプレイ実施				発表	中島		
	フィジカルイグザミネーション	6	バイタルサインとは、観察の必要性				講義	増田		
		7	意識、体温				講義・演習	増田		
		8	脈拍、呼吸、血圧①				講義・演習	増田		
		9	脈拍、呼吸、血圧②				講義・演習	増田		
		10	バイタルサインの実際				講義・演習	増田		
		11	記録・報告、身体計測				講義・演習	増田		
		12	呼吸・循環のフィジカルイグザミネーション				講義・演習	増田		
		13	消化器・運動器・神経系のフィジカルイグザミネーション				講義・演習	増田		
		14	フィジカルイグザミネーションの演習				演習	増田		
	15	試験(学習支援45分、フィジカルイグザミネーション45分)					中島・増田			
評価方法	筆記試験および講義中の課題提出により総合的に評価する。									
履修上の 注意	演習は十分な練習をして臨んでください。									
テキスト	有田清子他著 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 日野原重明監修 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 小田正枝 症状別看護過程 照林社 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル① SENKOSHA 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル② SENKOSHA									
参考図書	横山美樹 初めてのフィジカルアセスメント メディカ出版 日野原重明著 フィジカルアセスメント 医学書院 日野原重明監修 バイタルサインの見方・読み方 照林社 岡安大仁 ナースのための聴診スキルの教室 Gakken 藤野智子監修 基礎と臨床がつながるバイタルサイン Gakken 一柳陽子他著 看護学生のためのバイタルサインよくわかるBOOK メディカルフレンド社 村上美好著 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント インターメディカ聖マリアンナ医科大学看護部編集 みるみる身につくバイタルサイン 照林社									

授業科目	基礎看護技術 I-2		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	塚田 佳代美	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	すべての看護行為に共通する基本的な看護技術を学ぶ 1. 対象を全人的に把握し、日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 2. 健康障害を持つ対象を理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1) コミュニケーションに関する基礎的知識を理解し、技術・態度を身につけることができる 2) 自己のコミュニケーションの傾向を知り、今後の他者との関わり方を考えることができる 3) リフレクションに関する基礎的知識・技術・態度を学習できる 4) 看護におけるリフレクションを理解し、実践できる 5) 対象が安全に診療が受けられ療養生活が送れるように安全・感染に関する基礎的知識・技術・態度を学習する										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	安全・感染	1	感染の基礎知識、感染の脅威、感染予防に対する看護師の役割					講義	塚田		
		2	手洗いの実際、個人防護用具の使用法、経路別予防策					講義・演習	塚田		
		3	洗浄・消毒・滅菌、滅菌物の取り扱い					講義	塚田		
		4	個人防護用具の着脱、滅菌物の取り扱いと無菌操作					演習	塚田		
		5	安全管理					講義	塚田		
	コミュニケーション・リフレクション	6	看護の対象とトラベルビーに学ぶ看護とコミュニケーション					講義・GW	塚田		
		7	コミュニケーションの意義と目的 看護・医療におけるコミュニケーション					講義	塚田		
		8	関係構築のためのコミュニケーションの基本					講義・GW	塚田		
		9	効果的なコミュニケーションの実際 (傾聴・情報収集・説明の技術)					講義・GW	塚田		
		10	アサーティブネス					講義・GW	塚田		
		11	リフレクションと看護					講義	塚田		
		12	リフレクションの実際(プロセスレコード)					講義	塚田		
		13	コミュニケーションの実際とプロセスレコード					演習	塚田		
		14	プロセスレコードの振り返り、まとめ					講義・GW	塚田		
	15	試験						塚田			
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験、演習および講義中の課題提出、レポートにより総合的に評価する。課題の提出期限が遅れた場合は減点とする。										
履修上の注意	演習は真剣に取り組むこと 安全・感染の授業終了後:基礎看護技術まとめドリル②2日目・3日目の内容を解く コミュニケーションの授業終了後:基礎看護技術まとめドリル①1日目の内容を解く										
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I・II 医学書院 村上美好著 写真でわかる基礎看護技術② インターメディカ										
参考図書	川野雅資・大谷佳子 会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術 中央法規 福沢周亮・桜井俊子 看護コミュニケーション 基礎知識と実際 教育出版 太湯好子 患者の心に寄り添う聞き方、話し方 メディカルフレンド社										

授業科目	基礎看護技術 II-1		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	徳山 今日子 増田 百恵	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>日常生活の自立を支える看護技術とは看護の対象となる人の生活の自立を支えるための技術である。具体的には、体位変換・移動・移送などの日常の生活行動や生活環境を整える技術をいう。</p> <p>1. 対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。  1)活動・休息の意義・効果を知り、安全・安楽を提供できる技術を学習できる。  2)健康生活における生活環境の保持、意義を知り、日常生活行動において人間の生活を高め看護援助ができる。</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	生活環境	1	療養生活の環境、諸要素と調整					講義	増田		
		2	自分が入院したらどのような環境で生活したいか考えよう! 自分の感染防御を学ぶ(スタンダードプリコーション)					講義・GW	増田		
		3	ベッドメイキング					講義・演習	増田		
		4	ベッド周囲の環境整備・リネン交換					講義・演習	増田		
		5	ベッドメイキング演習					演習	増田		
	活動休息	6	基本的活動の基礎知識・移動(体位変換)					講義・演習	徳山		
		7	移動 体位変換のテクニック①					講義・演習	徳山		
		8	移動 体位変換のテクニック②					講義・演習	徳山		
		9	移動 体位変換のテクニック③ 車椅子移乗					講義・演習	徳山		
		10	歩行・車椅子移乗・ストレッチャー移乗 スライディングボード・スライディングシート使用法					講義・演習	徳山		
		11	睡眠と安静の援助					講義	徳山		
		12	褥瘡予防 体圧分散 弾性ストッキング装着方法 マルチグローブを使った背抜きなどの褥瘡対策					講義・演習	徳山		
		13	体位変換・車椅子移乗演習					演習	徳山		
	評価	14	筆記試験					筆記試験	増田・徳山		
15		合同技術試験					演習				
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験80点・合同技術試験20点										
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習日にそなえて技術練習を重ねた上で臨んで下さい。</li> <li>・合同技術試験に関しては、別途の要綱をお渡しします。</li> </ul> <p>各授業ごとに出された技術項目の合格を取れない場合は、合同技術試験に参加できませんので放課後等を使って練習しましょう。</p>										
テキスト	有田清子他, 系看 基礎看護学③ 基礎看護学技術II, 医学書院 吉田みつ子監修, 写真でわかる基礎看護技術, インターメディカ 本庄恵子監修, 写真でわかる臨床看護技術②, インターメディカ 登内秀子監修, 基礎看護技術まとめドリル①, SENKOSHA										
参考図書	ウイクター・スクルトヴィッチ編, 看護覚え書決定版, 医学書院(入学前購入のもの) ヴァージニア・ヘンダーソン著, 看護の基本となるもの, 現代社 山内豊明著, フィジカルアセスメントガイドブック, 医学書院										

授業科目	基礎看護技術 Ⅱ-2	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	宮崎杏子
								職種	専任教員
授業のねらい・目標	看護の対象となる人の生活の自立を支える技術を学ぶ 1. 対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 2. 健康生活における日常生活行動の意義を知り、生活を高めるための看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1) 健康生活における清潔の意義を知り、清潔が保持できるための基礎的知識・技術・態度を習得できる 2) 整容の意義を知り、健康生活における整容・衣生活に必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる								
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者	
	衣生活・清潔・整容	1	衣生活・清潔・整容の意義				講義	宮崎	
		2	整容の基礎知識と実際（口腔ケア・洗面・手拭き・髭剃り）				講義/GW	宮崎	
		3	整容の実際（体験してみよう）				講義/演習	宮崎	
		4	手浴・足浴の基礎知識と実際				講義/デモ	宮崎	
		5	足浴の演習				講義/演習	宮崎	
		6	洗髪・シャワー浴・入浴の基礎知識と実際				演習	宮崎	
		7	洗髪 演習				演習	宮崎	
		8	洗髪 演習				演習	宮崎	
		9	合同技術試験				演習	宮崎	
		10	寝衣交換・全身清拭の基礎知識と実際				講義/デモ	宮崎	
		11	寝衣交換・全身清拭 演習				演習	宮崎	
		12	寝衣交換・全身清拭 演習				演習	宮崎	
		13	清潔・衣生活・排泄 合同演習				演習	宮崎	
		14	清潔・衣生活・排泄 合同演習				演習	宮崎	
		15	まとめ、試験				講義・演習	宮崎	
単元ごととは順不同です。									
評価方法	筆記試験・実技試験、講義・演習への参加態度により総合的に判断します。								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習日が多いため体調管理をし受講できるように調整してください。</li> <li>・演習日に備えて、技術練習を重ねた上で臨んで下さい。</li> <li>・合同技術試験、合同演習に関しては、別途の要綱をお渡しします。</li> </ul>								
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③ 「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 医療情報科学研究所編 「看護がみえるvol. 1」 基礎看護技術 メディックメディア 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル① SENKOSHA								
参考図書	縣勢津子監修「看護必携シリーズ20 図解・基礎看護技術 目で見える看護手順」学習研究社 岡崎美智子編「看護技術実習ガイド①基礎看護技術—その手順と根拠—第2版」メヂカルブックス 角濱春美・梶谷佳子編「看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術」メヂカルブックス ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 ナイチンゲール著「看護覚え書」現代社 吉田みつ子監修 「写真でわかる基礎看護技術」インターメディアカ 小林小百合編 「根拠と写真で学ぶ看護技術1 生活行動を支える援助」中央法規 任和子編 「基礎・臨床看護技術」 医学書院 村中陽子編 「学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版」医歯薬出版株式会社 酒井郁子編 リハビリテーション看護 南江堂								

授業科目	基礎看護技術 Ⅱ-3	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	中島 太志 松浦 じゅん	
								職種	専任教員	
授業のねらい・目標	看護の対象となる人の生活の自立を支える技術を学ぶ 1. 対象の日常生活の自立を支えるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 2. 健康生活における日常生活行動の意義を知り、生活を高めるための看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1) 健康生活における食事の意義を知り、日常生活において人間の生活の質を高める援助技術の基礎的知識・技術・態度を習得できる 2) 健康生活における排泄の意義を知り、自然排泄および排泄の援助に必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
	栄養・食事	1	食事の意義、日本における現代の食生活と厚生労働省の指針				GW・講義	中島		
		2	ヘンダーソンの飲食に関する基本概念と観察・アセスメントの視点				GW・講義	中島		
		3	食事介助の援助				演習	中島		
		4	食事介助の援助（リフレクション）				講義・GW	中島		
		5	摂食・嚥下障害のある患者の看護 非経口栄養法について				演習・GW	中島		
		6	経管栄養カテーテル挿入法				講義	中島		
	排泄	7	排泄の意義・排泄のメカニズム、排泄障害のある患者の看護				講義	松浦		
		8	排便のメカニズム、排便障害のある患者の看護				講義	松浦		
		9	自然排尿・自然排便の介助の方法				講義・演習	松浦		
		10	オムツによる排泄援助、陰部洗浄について				講義・演習	松浦		
		11	陰部洗浄とオムツ交換①				講義・演習	松浦		
		12	陰部洗浄とオムツ交換②				講義・演習	松浦		
		13	陰部洗浄とオムツ交換（演習）				演習	松浦		
		14	清潔・衣生活・排泄 合同演習				演習	松浦		
15		試験（栄養・食事45分、排泄45分）					松田・松浦			
単元ごととは順不同です。										
評価方法	筆記試験、講義・演習への参加態度により総合的に判断します。 演習はチェックリストにより採点します。 栄養・食事：40点 排泄：60点									
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習日にそなえて、体調管理をすることと技術練習を重ねた上で臨んで下さい。</li> <li>・提出物は提出期限を守り提出すること。</li> <li>・身だしなみが整っていない場合は演習に参加できない。</li> <li>・栄養食事の授業終了後：基礎看護技術まとめドリル① 21日目～24日目を解いて提出。</li> <li>・排泄の授業終了後：基礎看護技術まとめドリル① 26日目～28日目を解いて提出。</li> </ul>									
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③ 「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 系統看護学講座 解剖生理学（医学書院） 登内秀子監修、基礎看護技術まとめドリル①、SENKOSHA									
参考図書	医療情報科学研究所編 「看護技術がみえるvol. 1」 基礎看護技術 メディックメディア 医療情報科学研究所編 「看護技術がみえるvol. 2」 基礎看護技術 メディックメディア 小林 小百合編 「根拠と写真で学ぶ看護技術 1 生活行動を支える援助」 中央法規 任 和子編 「基礎・臨床看護技術」 医学書院 村中 陽子編 「看護ケアの根拠と技術」 医歯薬出版株式会社									

授業科目	基礎看護技術 III-1		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	松浦 じゅん 杉本 恵理 中島 太志	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>診療に伴う援助技術として、医師が行う診療や治療の介助のための看護技術や医師の指示によって看護師が行う看護技術、急変時の看護技術を学ぶ</p> <p>1. 対象が受ける治療や処置に伴う看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>2. 対象の状況に合わせて必要な看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>1)救命処置が必要な対象への対応方法の意義と看護援助の基礎的知識・技術・態度を理解できる</p> <p>2)治療・処置を受ける対象を理解し、診療場面における看護を習得できる</p> <p>3)呼吸や排泄を支えるための看護援助の基礎的知識・技術・態度を学ぶ</p>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	包帯・救急法	1	救急医療の歴史、急変時の初期対応、一次救命処置					講義	中島		
		2	一次救命処置の実際					演習	中島		
		3	創傷管理、止血法、包帯法の基礎知識					講義	中島		
		4	包帯法の実際					演習	中島		
	呼吸を支援する看護技術	5	罨法の基礎知識と援助の実際					講義・演習	松浦		
		6	酸素療法の基礎知識と援助の実際					講義・演習	松浦		
		7	気道管理の基礎知識と排痰ケアの実際					講義・演習	松浦		
		8	吸引法の基礎知識と援助の実際					講義・演習	松浦		
	排泄を支える看護技術	9	浣腸の意義と基礎知識					講義	杉本		
		10	浣腸の援助技術の検討					講義・演習	杉本		
		11	浣腸の実際(演習チェック)					演習	杉本		
		12	一時的導尿と持続的導尿の基礎知識					講義・演習	杉本		
		13	持続的導尿技術の検討					講義・演習	杉本		
		14	持続的導尿の実際(演習チェック)					演習	杉本		
	15	試験・まとめ							松浦・中島・杉本		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験・講義・演習への参加態度により総合的に判断する 課題提出期限や課題提出方法が守られなければ、減点します										
履修上の注意	他科目の履修状況にあわせての学科進度となっており、講義間の期間が開く場合がある 心肺蘇生法・AEDを体験する 包帯・救急法の授業終了後:基礎看護技術まとめドリル② 24日目・26日目・27日目・28日目を解く 呼吸を支える援助技術終了後:基礎看護技術まとめドリル② 1日目～5日目を解く 排泄を支える技術の授業終了後:基礎看護技術まとめドリル① 29日目・30日目を解いて提出する。										
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③ 「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 医療情報科学研究所編 「看護技術がみえる②」 臨床看護後術 メディックメディア 坂井建雄、系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院 茂野香おる 系統看護学講座 専門 成人看護学概論 医学書院 小田正枝 症状別看護過程 照林社 登内秀子監修、基礎看護技術まとめドリル①、SENKOSHA 登内秀子監修、基礎看護技術まとめドリル②、SENKOSHA										
参考図書	縣勢津子監修「看護必携シリーズ20 図解・基礎看護技術 目で見える看護手順」学習研究社 大岡良枝編「なぜ?がわかる看護技術Lesson」学習研究社 本庄恵子監修 「写真でわかる臨床看護技術①」 インターメディア 本庄恵子監修 「写真でわかる臨床看護技術②」 インターメディア 小林 小百合編 「根拠と写真で学ぶ看護技術2生活行動を支える援助」 中央法規 任 和子編 「基礎・臨床看護技術」 医学書院 村中 陽子編 「看護ケアの根拠と技術」 医歯薬出版株式会社										

授業科目	基礎看護技術 Ⅲ-2		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	川合 陽子 中島 太志	
									職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>診療に伴う技術とは、医師が行う診療や治療の介助のための看護技術や医師の指示によって看護師が実施する看護技術、救急時の看護技術の基礎的知識・技術態度を学ぶ</p> <p>具体的には、検査・与薬の看護技術をいう</p> <p>1)健康障害を持つ対象を多角的に理解し、さまざまな状況にある対象に対して適切な看護を行うための基礎的知識を理解し、技術を学習できる</p> <p>2)検査・与薬時の対象の心理を理解し、検査・与薬における看護者の役割が理解できる</p> <p>3)検査・与薬における看護技術が安全に提供できる基礎的な知識を理解し、技術を学習できる</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
	検査	1	検査における看護師の役割、尿検査・便検査・喀痰検査					講義	中島		
		2	生体情報のモニタリング、穿刺検査					講義	中島		
		3	血液検査(動脈血採血・血糖測定・静脈血採血)					講義	中島		
		4	生体検査、検査・処置の介助					講義	中島		
		5	真空管採血法による採血演習					演習	中島		
	与薬時の 援助技術	6	与薬における看護師の役割、薬物動態					講義	川合		
		7	経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼、点鼻、					講義	川合		
		8	経皮的与薬、直腸内与薬					講義・演習	川合		
		9	注射法の基礎知識、注射の共通操作					講義・演習	川合		
		10	静脈内注射の基礎知識、ワンショット					講義・演習	川合		
		11	点滴静脈内注射、輸液速度調整の必要性					講義・演習	川合		
		12	皮下注射・皮内注射・筋肉注射・輸血管理					講義	川合		
		13	点滴静脈内注射の演習					演習	川合		
		14	皮下注射・筋肉注射・静脈内注射の演習					演習	川合		
		15	試験(検査45分・与薬45分)					試験	中島・川合		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験、課題提出、講義・演習への参加態度により総合的に判断します。課題提出期限や課題提出方法が守られなければ、減点します。										
履修上の 注意	採血・皮下注射・筋肉注射・静脈内注射の演習では、針を使用します。十分に学習し、安全に配慮しながら演習が行えるよう準備をしてきてください。										
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 登内秀子監修 基礎看護技術まとめドリル② SENKOSHA										
参考図書	福家幸子著、注射・採血ができる(Web動画付)(医学書院) 安藤郁子編著、根拠と写真で学ぶ看護技術3検査・治療を支える援助(中央法規出版) 医療情報科学研究所編 看護技術がみえる② 臨床看護後術 メディックメディア										

授業科目	看護過程		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	松浦 じゅん	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>あらゆる健康レベルの対象が、健康生活を営めるように援助するために必要な思考過程を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解できる</li> <li>2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる思考過程について理解できる</li> <li>3. 看護過程の各段階について基本的な考え方と実際を理解できる</li> </ol>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	看護過程とは、看護過程の5つの構成要素					講義	松浦		
		2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方(問題解決過程・クリティカルシンキング・倫理的配慮と価値判断・リフレクション)、ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程					GW	松浦		
		3	アセスメント(情報収集の視点)					講義・GW	松浦		
		4	アセスメント(情報収集)					講義・GW	松浦		
		5	アセスメント(アセスメントの枠組み・情報の分析・解釈①)					講義・GW	松浦		
		6	アセスメント(情報の分析・解釈②)					講義・GW	松浦		
		7	看護問題の明確化(関連図)					講義・GW	松浦		
		8	看護問題の明確化(看護問題リスト)					講義・GW	松浦		
		9	看護過程演習(関連図・看護問題リスト)①					演習	実習担当教員		
		10	看護過程演習(関連図・看護問題リスト)②					演習	実習担当教員		
		11	看護計画とは					講義・GW	松浦		
		12	計画立案①					講義・GW	松浦		
		13	計画立案②					講義・GW	松浦		
		14	実施、評価					講義・GW	松浦		
	15	試験45分間 講義45分間:看護診断					テスト・講義	松浦			
評価方法	筆記試験、課題提出、看護過程演習など総合的に判断します。個人情報取り扱いが守られなければ減点します。										
履修上の注意	「看護過程」とは対象者にとって必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論であるとともに思考過程です。既習の知識を活用しながらその人の個別性にあった看護を実践できるように学習を積み重ねていきましょう。 基礎看護学Ⅱ期実習の単位が未修得の場合は看護過程演習には参加できず、単位未修得となります。										
テキスト	有田清子他 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版 秋葉公子他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューベルヒロカワ 江崎フサ子他 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューベルヒロカワ										
参考図書	黒田裕子 わかりやすい看護過程 照林社 小田正枝 看護過程がよくわかる本 看護理論を实践に活かす 照林社 小田正枝 症状別看護過程 アセスメント・看護計画がわかる 照林社 リンダJ.カルベニート 看護診断ハンドブック 医学書院 NANDA-I看護診断 2018-2020 医学書院 古橋洋子 はじめて学ぶ看護過程 医学書院										

授業科目	基礎看護学 看護研究		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	増田百恵
									職種	専任教員
授業のねらい・目標	看護における研究の意義を学び、専門職としての必要な研究的態度を養う 1. 看護活動における研究の意義を理解できる。 2. 研究の種類・方法について理解できる。 3. 看護研究の一般的プロセスを理解できる。 4. 研究疑問や看護実践における自らの課題を探究していく中で論理的思考・研究的姿勢を身に付けることができる。 5. 複数の研究から得られる知見を統合し、研究課題を調査、レポートにまとめることができる。									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法		担当者	
	看護研究の基礎	1	研究・看護研究とは何か 何故看護研究を学ぶのか 帰納法と演繹的推論の仕組みと方法				講義		増田百	
		2	研究デザイン・研究方法・文献検索の仕方				講義		増田百	
		3	研究疑問を明確にしよう 仮説を考える シソーラス検索 研究課題の先行文献を探そう				講義		増田百	
		4	研究における倫理について 研究課題に関する文献をクリティークしながら読み込もう①				講義		増田百	
		5	研究課題に関する文献をクリティークしながら読み込もう②				講義・GW		増田百	
	文献検討レポート	6	レポートの方向性(テーマ・取り上げる観点)等をレポート構想シートで表現してみよう 用語の定義を確認する				講義・演習		増田百	
		7	担当教員別指導① レポート構想シートを用いた指導 レポートの骨子(序論)指導 文献検索状況(文献リスト・文献提出)の提示				担当教員サポート 個別対応・個人作業		担当教員	
		8	論文構成を考えよう 論旨の一貫性とは何か(論文作成構想)				GW 講義・演習		赤堀	
		9	構想メモを確認しながら本論を書いてみよう				個別対応・個人作業		赤堀	
		10	構想メモを確認しながら本論を書いてみよう				GW 講義・演習		赤堀	
		11	担当教員別指導② 序論～本論(文献を適切に用いているか)				担当教員サポート 個別対応・個人作業		担当教員	
		12	論旨の一貫性について 結論・まとめ				講義・個人作業		増田百	
		13	担当教員別指導③ 本論～まとめ(論旨の一貫性があるか)				担当教員サポート 個別対応・個人作業		担当教員	
	研究の基礎	14	どう見せ・伝えると相手に届きやすいか学ぼう 試験45分				講義 筆記試験		増田百	
15		発表会				発表・聴講		増田百		
評価方法	筆記試験 40点 文献検索・検討「レポート構想シート」課題への取り組みについて評価 20点 レポート作成 30点 発表 10点									
履修上の注意	日々の学習や看護実践における疑問を探究し、文献研究を基に結論を導きながらレポートにまとめます。学習に必要な用紙や印刷代金は自己負担となります。学校のパソコンで文書を作成する場合、シャットダウンで文章は削除されてしまいますのでGoogleドライブへの保管を忘れずに行ってください。基本的に認められていないUSBの使用は禁止しています。レポート提出が時間内になされなかった場合は、他の細分点が60点を超えていても単位の修得はできません。情報の取扱いや倫理的配慮に欠く行動があった場合、単位が取得できない可能性があります。									
テキスト	坂下玲子ほか, 系看別巻 看護研究, 医学書院									
参考図書	城ヶ端初子, 誰でもわかる看護理論, サイオ出版									

授業科目	基礎看護学 臨床推論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	増田 幸子	
								職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	看護の対象の置かれている状況を理解し、看護における思考過程を基に、その時に必要な看護を導き出し実践する能力を養う 1. 対象に出現している症状・徴候を学ぶ 2. 対象の置かれている状況を正確に把握し、看護としての行動が判断できるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ 1) 健康障害を持つ対象の症状・徴候から看護の意義を理解し、援助の基本が理解できる 2) 対象の置かれている状況を把握するための知識が理解でき、技術を実施できる 3) 得られた情報から解釈をし、看護としての行動の意義を理解できる 4) 実践した看護を振り返り、次の行動に活かすための努力ができる									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当		
	臨床 判断	1	臨床判断能力とは、臨床判断のプロセス				講義	増田		
		2	気づくとは DVDから考える				講義・GW	増田		
		3	気づくのトレーニング				講義・GW	増田		
		4	解釈				講義・GW	増田		
		5	反応・省察				講義・GW	増田		
		6	看護過程と臨床判断				講義・GW	増田		
		7	事例に合わせた看護過程と臨床推論① (常在条件と病理的状态基本的欲求)				講義・GW	増田		
		8	事例に合わせた看護過程と臨床推論③(関連図、問題リスト、看護計画)				講義・GW	増田		
		9	看護実践と反応①				演習	増田		
		10	看護実践と反応②				演習	増田		
		11	評価と省察①				講義・GW	増田		
		12	評価と省察②				講義・GW	増田		
		13	症状に合わせた臨床判断①				講義・GW	増田		
		14	症状に合わせた臨床判断②				講義・GW	増田		
		15	テスト まとめ					増田		
評価方法	記述テスト 30点		課題 50点		演習 20点					
履修上の 注意	事前課題があります。 演習時は、自己の考えを持って参加してください。									
テキスト	坂井建雄 系統看護学講座、専門基礎分野、解剖生理学、人体の構造と機能①、医学書院 有田清子他 系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院									
参考図書										

授業科目	地域・在宅看護論 原論 I		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次前期	担当者	押尾 智子 外部講師	
									職種	専任教員 保健師	
授業のねらい・目標	<p>地域でくらす人々の健康とくらしを理解し、生活環境が健康に与える影響について学ぶ。自ら互助に参加し、ボランティアや互助組織を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域でくらす人々のくらしを知る</li> <li>2. 島田市の特徴を知り、地域特性を理解することができる</li> <li>3. 環境が生活や健康に与える影響を考えることができる</li> <li>4. 互助に参加し、互助組織を知る</li> <li>5. 地域・在宅看護論の概念を知る</li> </ol>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
		1	地域・在宅看護論の概念/生活・地域の捉え方					講義	押尾		
		2	生活の基盤である地域を理解する/地域アセスメントとその意義					講義	押尾		
		3	地区踏査準備					講義	押尾		
		4	地区踏査					演習	押尾		
		5	地区踏査					演習	押尾		
		6	地区踏査					演習	押尾		
		7	地区踏査					演習	押尾		
		8	地区踏査まとめ					講義・演習	押尾		
		9	地区踏査まとめ 発表会					講義・演習	押尾		
		10	地区踏査まとめ 発表会					講義・演習	押尾		
		11	島田市を理解する					講義・グループワーク	押尾		
		12	島田市の特徴と課題・地域での保健師の活動・地域での事業					講義	外部講師(島田市健康づくり課 保健師)		
		13	互助を理解する。課題参加準備					講義	押尾・社協		
		14	様々なボランティア・市の事業の活動の実際を理解する					講義・グループワーク	押尾		
	15	様々なボランティア・市の事業の活動の実際を理解するまとめ					講義・グループワーク	押尾			
評価方法	地区踏査・夏の課題レポートの提出状況やグループワーク参加状況、小テスト20点で評価										
履修上の注意	<p>地区踏査は、島田市内の地域に出向いて調査をします。事前準備や当日は必ず参加が必要です。決められたルールを守り参加してください。終了後は課題レポートを記入し提出となります。夏休みの課題として、地域の事業に参加したりボランティアに参加することが課題になります。講義の中でいくつかアナウンスをしていきますが、各自でアポイントを取り、参加日程、内容など事前に提出をしてください。</p>										
テキスト	河原加代子ほか 系看 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院										
参考図書	ナーシンググラフィカ 臺 有桂他 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版										

授業科目	地域・在宅看護論 原論Ⅱ	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次後期	担当者	杉本 恵理	
								職種	専任教員 島田市職員(包括ケア推進課)	
授業のねらい・目標	<p>地域包括ケアシステムの理解と在宅看護の変遷、その社会背景をはじめ、地域での看護の目的、基本的な理念、暮らしを支えるための制度や社会資源を学ぶ。地域・在宅での対象者を知り、多様な療養の場を理解する。</p> <p>1. 地域包括ケアシステムを知る 2. 地域・在宅での対象者を知り、看護が提供される多様な場の理解ができる 3. 地域での療養を支える制度や社会資源を理解することができる 4. 地域での看護の機能と特徴を理解できる</p>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当		
		1	地域・在宅看護の背景を理解しよう				講義	杉本		
		2	島田市における地域包括ケアシステムについて 自助・互助・公助・共助の理解				講義	島田市職員 (包括ケア推進課)		
		3	地域での暮らしを理解する				講義	杉本		
		4	地域・在宅看護の対象者				講義	杉本		
		5	家族を理解する				講義	杉本		
		6	暮らしを支える看護とは①				講義	杉本		
		7	暮らしを支える看護とは②				講義	杉本		
		8	地域・在宅看護 実践の場と連携				講義	杉本		
		9	地域・在宅看護にかかわる制度①				講義	杉本		
		10	地域・在宅看護にかかわる制度②				講義・演習	杉本		
		11	地域・在宅看護にかかわる制度の活用				講義・演習	杉本		
		12	社会資源の活用 グループ学習①				演習	杉本		
		13	社会資源の活用 グループ学習②				講義・演習	杉本		
		14	社会資源の活用 グループ学習 発表				演習	杉本		
		15	まとめ テスト					杉本		
評価方法	筆記試験、課題、演習の参加状況									
履修上の注意										
テキスト	河原加代子ほか 系看 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院									
参考図書	押川真喜子監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研 静江 よくわかる地域・在宅看護論 照林社								池西	

授業科目	地域・在宅看護論 暮らしを支える看護Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	押尾 智子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>在宅における日常生活援助について、基本的なアセスメントや援助技術の方法を学ぶ。病気や障害を持ち生活することがイメージでき、対象に合わせた看護のあり方を理解する。</p> <p>1. 対象特性に合わせたアセスメントができる  2. 療養者の状況に応じた援助技術の方法を理解することができる  3. 病気や障害を持ち生活することのイメージができ、必要な看護のあり方を理解することができる</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	暮らしを支える看護の基本姿勢 信頼関係を築くためのマナーとコミュニケーション方法					講義	押尾		
		2	信頼関係を築くためのマナーとコミュニケーション方法セルフケアを支える対話・コミュニケーション					演習	押尾		
		3	地域・在宅における療養環境調整					講義	押尾		
		4	難病を抱える療養者の療養の実際と看護(ALS疾患の理解とコミュニケーション方法)					講義	押尾		
		5	暮らしを支える看護技術・食					講義	押尾		
		6	暮らしを支える看護技術・排泄(排便等演習含む)					講義/演習	押尾		
		7	暮らしを支える看護技術・清潔/物品の工夫					講義・GW	押尾		
		8	暮らしを支える看護技術・清潔/物品の工夫					演習	押尾		
		9	暮らしを支える看護技術・清潔/物品の工夫					演習	押尾		
		10	暮らしを支える看護技術・活動/褥瘡予防/福祉用具の活用方法					講義/演習	押尾		
		11	暮らしを取り巻くリスクと安全対策					講義	押尾		
		12	在宅における看取りとその課題 エンドオブライフケア					講義	押尾		
		13	在宅における看取りとその課題 エンドオブライフケア					講義	押尾		
		14	内服管理/介護で活躍するロボット					講義	押尾		
	15	まとめ テスト						押尾			
評価方法	筆記試験										
履修上の注意	演習は必ず出席すること										
テキスト	河原加代子ほか 系看 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院										
参考図書	押川真喜子監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研 ナーシンググラフィカ 有桂他 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版										

授業科目	地域・在宅看護論 くらしを支える看護Ⅱ		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次後期	担当者	宮下宝子 中沢弥生 増田幸子	
										職種	認定看護師 看護師 専任教員
授業のねらい・目標	<p>在宅看護における安全と健康危機管理について学び、医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的な方法を学ぶ。在宅での医療処置に関する基本的な知識について習得し対象に対する教育的支援方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養に必要な医療機器管理、異常の早期発見、観察の視点を理解することができる</li> <li>2. 医療廃棄物の取り扱いや感染予防など在宅で医療処置を行う際の基本的注意 事項を理解できる</li> <li>3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた医療機器管理の教育的支援方法を理解することができる</li> </ol>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	在宅経管栄養法 経鼻経管栄養・胃瘻管理					講義	宮下宝子		
		2	膀胱留置カテーテル管理、ストーマ管理/災害時の対応や準備含む					講義/演習	宮下宝子		
		3	CAPD管理・輸液管理(中心静脈栄養・インスリン自己注射管理)管理料・使用した物品の廃棄					講義	宮下宝子		
		4	在宅酸素療法(HOT) 管理指導 閉塞性肺疾患と呼吸法					講義/演習	増田幸子		
		5	在宅酸素療法(HOT)NPPV 管理					講義/演習	帝人		
		6	気管切開管理・気管カニューレ管理・吸引の物品管理 排痰ケア含む					講義	宮下宝子		
		7	人工呼吸療法(管理)HMV TPPV・NPPV管理					講義	宮下宝子		
		8	試験						宮下宝子		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	河原加代子ほか 河原加代子ほか	系看 系看	専門分野 専門分野	地域・在宅看護論1 地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践	医学書院 医学書院					
参考図書	押川真喜子監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研										

授業科目	地域・在宅看護論 くらしを支える 看護Ⅲ		単位	2単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	増田 白石 市川 廣住 大石 高橋 米澤 古瀬 横山	
									職種	医師 作業療法士 薬剤師 保健師 介護支援専門員 専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>様々な事例から地域でくらす人々とその家族、その取り巻く環境と状況に応じた看護の実践を学ぶ。療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について理解する。地域でくらす人々の状況を知り、様々な職種がどのように支援しているのか、そして、多職種連携・協働の必要性を学び、関連機関・施設の役割を含め理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で療養する人とその家族の看護に必要なアセスメントについて、自己の考えを持つことができ、他者の意見を参考に考えることができる</li> <li>2. 事例から訪問時の観察の視点、判断、看護を検討し、地域でくらす人々への看護の視点を理解することができる</li> <li>3. 学生間での協同学習を通して、学びを共有することができる</li> <li>4. 継続看護の必要性を理解することができる</li> <li>5. 地域でくらす療養者、障害者(児)、要介護者、要支援者、今看護を必要とする人々の生活状況と課題を把握することができる</li> <li>6. 多職種の役割を理解し、多職種間での連携と協働の必要性を理解することができる</li> </ol>										
授業内容 および方法	単元の まとまり	回	主題				方法	担当			
		1	ケアマネジメント 社会資源をどのように結び付けるのか 多職種多機関連携について考える				講義/グループ ワーク	増田幸子			
		2	社会資源の活用 地域支援事業などの活用の実際				講義/グループ ワーク	増田幸子			
		3	地域でくらす人とその家族をとらえるための情報収集の視 点(観察の視点とアセスメント)				講義	増田幸子			
		4	訪問看護演習				講義/演習	増田幸子			
		5	訪問看護演習				講義/演習	増田幸子			
		6・7	演習まとめ				講義/演習	増田幸子			
		8	障害者の理解をする「障害を持った人が自立して生活す るために必要な支援とは」社会資源(施設の役割含め) 制度・多職種連携の必要性について				講義	市川武 (空と大地)			
		9	介護支援専門員の役割と実際 訪問入浴に携わる看護 師・介護士の役割と実際/介護支援専門員の活動の実際 多職種連携をどう考えるか 訪問入浴の実際				講義/演習	廣住友佳 (セントケア)			
		10	地域での作業療法士の役割と看護師との連携について 連携協働について作業療法士が考える事 リハビリテー ションの実際				講義	大石雄介 (アポロン伊太)			
		11	地域でくらす高齢者を支える施設の中での看護の役割と 多職種との連携協働について学ぶ				講義	高橋里佳 (エクトープ)			
		12	地域における高齢者支援の中で、総合相談窓口である地 域包括支援センターの関り等から、多職種の活動連携を 学ぶ				講義	保健師 (包括ケア推進 課)			
		13	病院と地域をつなぐために必要な看護の役割を理解する (活動の実際を学ぶ。継続看護の必要性を理解する) 地 域連携室 退院支援看護師の病院内での活動の実際を 学ぶ				講義	看護師 (島田市立総合医療セン ター退院支援 看護師)			
		14	療養の場の移行に伴う看護 医師の地域での活動の実際				講義	白石好 医師			
		15	療養の場の移行に伴う看護 薬剤師の地域での活動の 実際				講義	横山啓子 薬剤 師			
評価方法	小テスト、講義参加態度やグループワークの参加度、レポート課題での評価										
履修上の 注意	1回の外部講師の講義に関しては必ず聴講すること。講義終了後学びを整理用紙にまとめること。事例展開は個人学習とグループワークを行い、学びを深めていきます。講義前に疾患や制度に関する学習をし、参加してください。その都度、学習内容を自己評価・他者評価します。										
テキスト	河原加代子ほか 系看 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子ほか 系看 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院										
参考図書											

授業科目	成人看護学 原論	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	押尾 智子
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>成人期における生理的諸機能、心理的発達、生活形態、社会的役割を理解し、成人期の疾病の特徴をとらえ、保健医療を通して、健康の保持増進の看護活動の概要を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人各期の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる</li> <li>2. 成人期における保健医療の現状と動向について学び、疾病の予防、健康の保持増進のシステムを理解できる</li> <li>3. 各健康のレベルに応じた個人または集団に対する健康教育の実際を理解できる</li> <li>4. 成人期における疾病の特徴を知り健康問題が個人の社会・家庭生活に及ぼす影響を理解できる</li> </ol>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	成人と生活 大人であること 家族とは				講義	押尾	
		2	対象の生活 働いて生活を営むこと				講義・演習	押尾	
		3	成人を取り巻く環境と生活の状況				講義・演習	押尾	
		4	成人の健康の状況				講義	押尾	
		5	「成人期にある人の健康」の講義とグループワーク				演習	押尾	
		6	「成人期にある人の健康」のグループワークの発表				演習	押尾	
		7	成人への看護アプローチの基本 大人の健康行動				講義	押尾	
		8	患者一看護師の人間関係と集団へのアプローチ				講義・演習	押尾	
		9	健康レベルや状態に対応した看護 ヘルスプロモーション ストレスと健康				講義	押尾	
		10	職業に関する健康課題 職業性疾患 作業関連疾患				講義	押尾	
		11	健康レベルや状態に対応した看護 危機状態 「病みの軌跡」 セルフケア				講義	押尾	
		12	健康レベルや状態に対応した看護 リハビリテーション 全人的苦痛				講義	押尾	
		13	移行支援				講義	押尾	
		14	AYA世代について考える DVD聴講・グループワーク				講義・演習	押尾	
	15	試験・発表				演習	押尾		
評価方法	筆記試験、グループワークへの参加態度により総合的に判断する								
履修上の 注意	ヘルスプロモーション、トランスセオレティカルモデルなどの用語や法律・制度については説明できるように理解すること。								
テキスト	小松浩子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 /厚生労働統計協会(8月刊行)								
参考図書	林 直子 NICE 成人看護学概論 南江堂 安酸史子 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版								

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅰ がん看護		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	増田 百恵 和田 奈美子
										職種
授業の ねらい ・目標	<p>がん看護は、がんと診断された人およびその家族を対象に、がんおよび治療からもたらされる全人的苦痛を緩和し、がんと共にその人らしい生活や人生を送ることができるように、根拠に基づいた看護実践を行うことが求められる。また、予防や早期発見・早期治療につながるようがん啓発教育を実践することでもある。そのための看護の基礎となる知識を習得し、今後の看護実践に活かしていく方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々にとってのがんという病気を理解できる</li> <li>2. がん医療の発展と治療を理解できる</li> <li>3. がんの治療による生活への影響を理解できる</li> </ol>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者	
		1	悪性腫瘍について、診断と治療					講義、演習	増田	
		2	現在の社会情勢と統計					講義、演習	増田	
		3	がん医療における倫理					講義、演習	増田	
		4	治療の種類とその看護(化学療法・免疫療法)					講義、演習	和田	
		5	治療の種類とその看護(手術療法・放射線療法 他)					講義、演習	増田	
		6	がん患者の療養の場における看護 1					講義、演習	増田	
		7	がん患者の療養の場における看護 2 (がんサバイバーシップとソーシャルサポートを含む)					講義、演習	増田	
		8	試験						増田	
評価方法	筆記試験(レポート課題・演習態度により総合的に判断する。)									
履修上の 注意										
テキスト	小松浩子 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 任和子 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 大橋健一 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 医学書院									
参考図書	「国民衛生の動向」後日配布 鈴木久美 看護学テキストNICE がん看護 南江堂 藤野彰子監修 看護技術ベーシック 医学芸術新社 平山正実 新体系看護学第35巻 生と死の看護論 メヂカルフレンド社									

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅱ リハビリテーション看護		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	松田 千春 石川 美幸 松林 洋輝 伊井 真理子 小田 和弘	
									職種	専任教員 認定看護師 看護師 言語聴覚士	
授業の ねらい ・目標	<p>回復期とは、疾病や外傷、手術などによって生命の危機状況にある急性期を脱し、身体の治癒過程が回復に向かって進行している時期である。身体侵襲を受けた対象者の身体的機能が安定した状態から回復に向かう過程において、リハビリテーション対象者の援助に必要な基礎的知識を学ぶ</p> <p>1. 回復期にある対象を理解し、回復期にある成人がその人らしい自立した生活を再構築するためのプロセスを学ぶ</p> <p>2. 疾患や障害によって変化したQOLを再構築するために必要な看護支援方法を学ぶ</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	リハビリテーションの歴史と概念(ICF・チーム医療)					講義	松田		
		2	リハビリテーション看護の対象理解を深めるための理論・概念①					講義・GW	松田		
		3	リハビリテーション看護の対象理解を深めるための理論・概念②					講義・GW	松田		
		4	療養生活を支える家族への援助					講義	松田		
		5	脳卒中による運動機能障害のある人のへ看護					講義	松林		
		6	高次脳機能障害のある人のへ看護					講義	松林		
		7	運動機能障害のある人の看護(脊髄損傷)					講義	伊井		
		8	運動機能障害のある人の看護(大腿骨頸部骨折)					講義	伊井		
		9	摂食嚥下障害のある人への看護					講義	小田		
		10	摂食嚥下障害のある人への看護					講義	小田		
		11	循環器に障害を持つ人のへ看護(心筋梗塞)					講義	松田		
		12	循環器に障害を持つ人のへ看護(ペースメーカー・心電図モニター)					講義・演習	松田		
		13	身体の一部を喪失した人への看護(人工肛門・ストマ管理)					講義	石川		
		14	身体の一部を喪失した人への看護(乳房切除後)					講義	石川		
		15	試験(45分)・まとめ						松田		
評価方法	筆記試験(外部講師10点×5名=50点+専任教員50点=100点)										
履修上の 注意	<p>※事前学習として「心筋梗塞」「脳梗塞」「脳出血」「大腸がん」「乳がん」「大腿骨頸部骨折」「摂食・嚥下機能」についてまとめておくこと。他にもシラバスを見て各自に必要な学習を進めておくこと。</p> <p>※複数の講師で1単位の修得となるため各講義終了後、学習を整理しておくこと。</p> <p>※筆記試験は外部講師4名分をまとめて実施する。</p>										
テキスト	<p>原三紀子 系統看護学講座 別巻リハビリテーション看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 成人看護学 脳神経・循環器・消化器・運動器疾患 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</p>										
参考図書	<p>山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院</p> <p>茂野香おる 系統看護学講座 専門 成人看護学概論 医学書院</p> <p>安酸史子 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版</p>										

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅲ セルフマネジメント		単位	看護方法Ⅲで 1単位	時間数	23時間	講義時期	2年次前期	担当者	小沼 由美	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	<p>慢性の病いは、長期的にわたって疾病の管理をしながら社会生活を継続させなければならない。疾病のコントロールができないと、病状は悪化し、生命の危機的状態に至る場合もある。何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて、自分らしく生きていくかを支援することは、看護の大きな役割となる。セルフマネジメントの基本的な考え方を学び、今後の看護実践に活かしていく方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. セルフケアマネジメントを必要とする状態にある慢性病者の病態・症状・治療法を理解し、看護に結び付けて説明できる</li> <li>2. 慢性病とともに生きる成人の身体・心理・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助が理解できる</li> <li>3. セルフマネジメントのための対象理解やセルフマネジメントを支える理論について学ぶ</li> </ol>										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者			
	慢性期にある患者の看護	1	慢性の病いとともに生きる人の理解				講義	小沼			
		2	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		3	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		4	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援(簡易血糖測定含む)				講義 グループワーク	小沼			
		5	慢性腎臓病とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		6	透析療法が必要な人のセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		7	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		8	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援				講義	小沼			
		9	肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援				講義 グループワーク	小沼			
		10	肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援				講義	小沼			
		11	セルフマネジメントを支える理論				講義	小沼			
	12	試験(45分)					小沼				
評価方法	筆記試験、課題提出、グループワーク参加度										
履修上の注意	期限内に提出できなかった課題については、採点除外とします。提出期限をきちんと守ってください。										
テキスト	鈴木久美 看護学テキストNICE 慢性期看護 南江堂										
参考図書	<p>系統看護学講座 専門 成人看護学3循環器、成人看護学5消化器・内分泌、成人看護学6内分泌・代謝、成人看護学8腎・泌尿器、医学書院  安酸史子 ナーシング・グラフィカ 成人看護学3 セルフマネジメント メディカ出版  野川道子 看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社  佐藤栄子 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研</p>										

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅲ 感染症看護	単位	看護方 法Ⅲで 1単位	時間数	7時間	講義時期	2年次	担当者	松田 千子
								職種	認定看護師
授業の ねらい ・目標	<p>感染症とはウイルスや細菌あるいは真菌などの微生物が体内に増殖することによって生じるさまざまな病気の総称である。感染症は集団発生することがあり、ひとたび集団発生が起こった場合、その発生場所のみならず地域・社会にも脅威を与える。感染症を予防し、感染症に罹患し複雑な問題を抱える患者、その家族に対する看護について学ぶ。</p> <p>1. 感染により障害を受けた患者と家族を理解できる 2. 感染症が成立するための条件やそれを予防するための方法を学ぶ 3. 感染による障害の特徴、症状、治療、処置、検査時の看護を学ぶ</p>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
	感 染 に よ り の 障 害 を 受	1	感染症とは、感染の成立、感染症の病態生理・症状 (肝炎・結核・敗血症・インフルエンザ・MRSAほか)				講義	松田	
		2	感染症疾患の理解(診断・検査、感染症の治療)				講義	松田	
		3	感染経路別予防策、職業感染予防、サーベイランス、予防接種				講義	松田	
	4	試験(45分)					松田		
評価方法	筆記試験								
履修上の 注意									
テキスト	岩田健太郎 系統看護学講座 専門 成人看護学11アレルギー・膠原病・感染症。医学書院								
参考図書									

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅳ クリティカルケア		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	塚田 佳代美
									職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>人の身体には侵襲に対してホメオスタシス(恒常性)を保とうとする機能が備わっている。何らかの医療的措置を講じないと健康破綻をきたし生命の危機に陥る状態を急性状態とよび、この時期を急性期という。この生命の危機状態にある人とその家族の特徴を身体的、心理的、社会的側面から理解する。また、救命救急処置を必要とする人とその家族の看護、手術を受ける患者の術前から術後の看護を基礎的知識を踏まえて、それぞれの状態に合わせた看護実践の方法について学ぶ。</p> <p>急性期看護を「救急看護」「周手術期看護」の2分野で授業構成する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期にある対象とその家族の特徴とその支援を身体的、心理的、社会的側面から学ぶ</li> <li>2. 救急医療の特徴と救急看護の役割を学ぶ</li> <li>3. 救急治療を必要とする対象の状況に応じた看護の視点を学ぶ</li> <li>4. 集中治療の場で行われる看護について学ぶ</li> <li>5. 消化器外科を中心とした術前・術中・術後の周術期の看護を学ぶ</li> <li>6. 事例展開を通して、技術演習を行い実践能力を高める</li> </ol>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者	
	救急看護	1	急性期、急性期看護の概念、急性の状態にある成人期の患者と家族の特徴と看護					講義	塚田	
		2	救急医療の特徴と救急看護の役割 緊急性と重症度について					講義	塚田	
		3	重症患者の系統的アセスメント、心肺停止状態への処置					講義	塚田	
	集中治療	4	重症患者のアセスメントと看護 (外傷、熱傷、ショック、急性中毒)					講義	塚田	
		5	麻酔・手術侵襲と生体反応					GW	塚田	
	手術を受ける 患者の看護	6	周手術期とは、術前の看護(不安のアセスメントと術前オリエンテーション)					講義	塚田	
		7	術前看護(術後合併症のリスクアセスメント)					講義	塚田	
		8	手術中の看護(手術中の安全管理、手術体位による影響と看護)					講義	塚田	
		9	手術中の看護(麻酔による影響と援助:循環管理・体温管理・呼吸管理、退出時の看護)					講義	塚田	
		10	術後の看護(手術当日・1日目以降の観察と看護、ドレーン挿入部の処置および管理、疼痛緩和)					講義	塚田	
		11	術後合併症の観察と予防援助①					講義・GW	塚田	
		12	術後合併症の観察と予防援助②					講義・GW	塚田	
		13	腹腔鏡下定位前方切除術後1日目の観察とアセスメント					演習	塚田	
		14	演習振り返り 術後の看護					講義	塚田	
15		試験・まとめ						塚田		
単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験、講義、グループワーク、演習への参加態度により総合的に判断する。									
履修上の 注意	<p>授業資料は実習に活用できるようにファイルに整理を行うこと。</p> <p>追加の課題学習は、授業資料とともに随時整理を行うこと。</p> <p>課題については提出期限を厳守すること。(時間に遅れた場合は減点の対象となる)</p> <p>グループワークには積極的に参加すること。</p>									
テキスト	<p>矢永勝彦 系統看護学講座 別巻1臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>山勢博彰 系統看護学講座 別巻救急看護学 医学書院</p> <p>井上智子 パーフェクト臨床実習ガイドⅠ 成人看護Ⅰ 照林社</p>									
参考図書	<p>中島恵美子 これならわかる 術前・術後の看護ケア ナツメ社</p> <p>竹内登美子 高齢者と成人の周手術期看護 2・3 医歯薬出版株式会社</p> <p>石塚睦子 よくわかる周手術期看護 学研</p> <p>山本千恵 周手術期看護 はじめの一步 照林社</p>									

授業科目	成人看護学 看護方法Ⅴ エンド・オブ・ラ イフ・ケア		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次後期	担当者	増田 幸子
									職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>終末期は死を意識し、様々な症状による苦痛や不安が多い。苦痛や不安を軽減し、その人にあったQOLを高める看護が求められる。緩和ケアの基本を学びつつQOLを高めるための看護の実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象と家族の特徴を理解し、おこりうる健康問題を理解できる</li> <li>2. 終末期にある看護の対象の特徴を理解し、経過に応じた看護を学ぶことができる</li> <li>3. 終末期にある対象の症状、治療、処置時の看護方法を学ぶことができる</li> <li>4. 緩和ケアにおける患者・家族への看護について学ぶことができる</li> </ol>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者	
		1	終末期とは					講義	増田	
		2	情報の伝え方とこれからの考え方についての看護					講義	増田	
		3	4側面の理解(身体的、社会的側面)					講義	増田	
		4	4側面の理解(精神的、スピリチュアル)					講義	増田	
		5	全人的にとらえた看護の実際					講義	増田	
		6	看護の実践方法					講義、演習	増田	
		7	評価と修正方法について					講義	増田	
		8	試験						増田	
評価方法	筆記試験(80点)、課題提出状況(20点)									
履修上の 注意	疾患・治療・検査などは理解を深めておいてください。 看護過程を活用します。復習しておいてください。									
テキスト	恒藤 暁, 系統別看護学講座, 別巻, 緩和ケア, 医学書院 任和子, 系統別看護学講座, 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院									
参考図書	藤野彰子監修, 看護技術ベーシック, 医学芸術新社 平山正実, 新体系看護学第35巻 生と死の看護論, メディカルフレンド社									

授業科目	老年看護学 原論		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	1年次	担当者	小沼 由美	
	職種	専任教員									
授業の ねらい ・目標	<p>老化に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解する  高齢者を取り巻く社会状況と諸問題について学ぶ。高齢者に関わる保健医療福祉システムを学ぶ  老年看護の意義、機能や役割について知る  1. 老化に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解することができる  2. 高齢者を取り巻く社会状況と諸問題について学ぶ  3. 高齢者に関わる保健医療福祉システムを学ぶ  4. 老年看護の意義、機能や役割について理解することができる</p>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	老年看護学の概念 老いるとは					講義	小沼		
		2	加齢に伴う身体・心理・社会的側面					講義	小沼		
		3	加齢に伴う身体・心理・社会的側面					講義	小沼		
		4	疑似老人体験					講義	小沼		
		5	超高齢社会の統計的輪郭					講義	小沼		
		6	高齢者の健康と暮らしの現状					GW	小沼		
		7	高齢者の健康と暮らしの現状					GW	小沼		
		8	現代社会における高齢者の問題を理解する					講義	小沼		
		9	超高齢社会における保健医療福祉の動向					講義	小沼		
		10	超高齢社会における保健医療福祉の動向					講義	小沼		
		11	高齢者の権利擁護 虐待・拘束 倫理					講義	小沼		
		12	高齢者の権利擁護 虐待・拘束 倫理					講義	小沼		
		13	老年看護の成り立ち 看護理論					講義	小沼		
		14	高齢者の住まい 施設					講義	小沼		
	15	テスト まとめ						小沼			
評価方法	筆記試験、事前事後学習などのレポート、グループワークの参加度で総合的に判断する										
履修上の 注意	疑似老人体験や高齢者に関するトピックスのレポート提出があります。期限を厳守すること。期限に間に合わない場合は採点除外とします。										
テキスト	北川公子ほか、系看、専門分野 老年看護学, 医学書院 鳥羽研二ほか、系看、専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院 国民衛生の動向 /厚生労働統計協会(8月刊行)										
参考図書	高齢社会白書(令和7年度版)内閣府 鈴木隆雄, 超高齢社会の基礎知識, 講談社新書										

授業科目	老年看護学 看護方法Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	中村逸佳 杉本恵理 石川美幸	
										職種	看護師 認定看護師 専任教員
授業の ねらい ・目標	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、対象のとらえ方やアセスメントの視点、対象に合わせた看護の視点を学ぶ										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	日常生活を支える基本的活動					講義	中村		
		2	転倒のアセスメントと看護・廃用症候群のアセスメントと看護					講義	中村		
		3	食事食生活アセスメントと看護					講義	中村		
		4	排泄のアセスメントと看護					講義	中村		
		5	生活リズムを整える看護					講義	中村		
		6	清潔のアセスメントと看護					講義	中村		
		7	セクシュアリティと看護					講義	中村		
		8	高齢者のヘルスアセスメント					講義・GW	杉本		
		9	身体に加齢変化とアセスメント ロコモティブシンドローム/フレイル/サルコペニア					講義	杉本		
		10	健康逸脱からの回復を促す看護高齢者に見られる身体症状とアセスメント(痛み)					講義・GW	杉本		
		11	健康逸脱からの回復を促す看護高齢者に見られる身体症状とアセスメント(発熱/脱水)					講義・GW	杉本		
		12	健康逸脱からの回復を促す看護高齢者に見られる身体症状とアセスメント(かゆみ/倦怠感/浮腫)					講義・GW	杉本		
		13	褥瘡予防と対処					講義	石川		
		14	褥瘡予防と対処					講義	石川		
	15	テスト まとめ						中村・杉本			
評価方法	筆記試験、授業の参加態度など総合的に評価します。										
履修上の 注意	老年看護学実習に向けて老年用アセスメントガイドを作成します。講義と並行して準備していくこと。毎授業にて進捗状況を確認しますので持参してください。詳細は1回目の講義の中で説明します。										
テキスト	北川公子ほか、系看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 鳥羽研二ほか、系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論										
参考図書	奥野茂代・大西和子編集:「老年看護学 概論と看護の実践」ヌーベルヒロカワ 山田律子・井出訓編集:「生活機能からみた老年看護過程」医学書院 野溝明子著:「高齢者の解剖生理学気持ちに寄り添う仕事をするための実践知識」秀和システム										

授業科目	老年看護学 看護方法Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	木下司紗 松林洋輝 宮崎杏子 田井中正志	
									職種	認定看護師 専任教員 外部講師	
授業の ねらい ・目標	健康障害を抱え生活する高齢者への看護、健康逸脱からの回復を促す高齢者への看護を理解する 健康障害を抱え生活する高齢者を支える家族について理解する。										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	認知症のある患者の看護					講義	木下		
		2	認知症のある患者の看護					講義	木下		
		3	せん妄・うつ病のある患者の看護					講義	木下		
		4	治療を必要とする高齢者の看護					講義	宮崎		
		5	身体疾患のある高齢者の看護①					講義	宮崎		
		6	身体疾患のある高齢者の看護②					講義/GW	宮崎		
		7	リハビリテーションを受ける高齢者の看護					講義	松林		
		8	老年期のエンドオブライフケア①					講義	宮崎		
		9	老年期のエンドオブライフケア②					講義	宮崎		
		10	高齢者のリスクマネジメント					講義	宮崎		
		11	手術療法を受ける高齢者の看護					講義/GW	宮崎		
		12	手術療法を受ける高齢者の看護					講義	宮崎		
		13	レクリエーション療法					講義	田井中		
		14	レクリエーション療法					講義	田井中		
		15	テスト・まとめ						宮崎		
評価方法	筆記試験・グループワークの参加度・事前事後学習などのレポートで総合的に判断する										
履修上の 注意											
テキスト	北川公子ほか, 系看, 専門分野 老年看護学, 医学書院										
参考 図書	泉キヨ子 他、「看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 第4版」メヂカルフレンド社 太田喜久子、「老年看護学 第3版 健康生活を支える高齢者理解と看護援助」医歯薬出版株式会社 恒藤暁 他、「系統看護学講座 別巻 緩和ケア」医学書院										

授業科目	老年看護学 看護方法Ⅲ		単位	1単位	時間数	20時間	講義時期	2年次	担当者	小沼 由美 杉本 恵理 増田 百恵
									職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>高齢者の特徴を踏まえ、対象を理解するための考え方を学ぶ。  対象のADLの状況や健康レベルに応じた看護の展開方法を検討し、対象に合わせた援助技術を理解することができる。  (1) 事例の患者情報を身体的・心理的・社会的・環境的側面から情報集し、整理できる  (2) 加齢変化や高齢者特有のアセスメント指標を活用し、対象者の健康状態や生活機能を客観的に評価・分析できる  (3) 高齢者の特徴をふまえ、対象者のADLの状況や健康レベルに応じ清潔援助の方法を根拠をもとに考えることができる  (4) 模擬患者に対して看護援助を実践し、全体で意見交換後に行った技術を振り返ることができる  (5) リフレクションにて行動を振り返り、次への課題を明らかにできる</p>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当	
		1	事例検討: 対象を捉えるために必要な情報収集					講義 グループワーク	小沼	
		2	事例検討:看護計画					講義 グループワーク	小沼	
		3	看護計画検討会					講義	小沼 杉本 増田	
		4	事例検討:対象者に合わせた看護技術計画					講義 グループワーク	小沼 杉本 増田	
		5	技術検討:対象のADLの状況や健康レベルに応じた看護を考える					グループ ワーク	小沼	
		6							小沼 杉本 増田	
		7	発表 対象に合わせた援助技術					演習	小沼 杉本 増田	
		8						小沼 杉本 増田		
		9						小沼 杉本 増田		
	10	援助技術の振り返り・まとめ					演習 講義	小沼 杉本 増田		
評価方法	課題の提出やグループワーク参加状況、発表態度で総合的に評価をします。 参加度/課題内容									
履修上の 注意	事前学習が提出できない場合は、グループワークへの参加はできません。 期限内に提出できなかった課題については、採点除外とします。 提出期限をきちんと守ってください。									
テキスト	北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院									
参考 図書	奥野茂代・大西和子編集 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 スーバルヒロ カワ 正木治恵編集 老年看護学実習ガイド 照林社									

授業科目	小児看護学 原論	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	1年次後期	担当者	赤堀 夏海
								職種	専任教員
授業の ねらい ・目標	<p>小児各期の特徴を理解し、成長・発達について機能的側面や社会的側面から学び、小児を取り巻く社会・環境・保健・福祉・医療制度の仕組みを理解する</p> <p>1. 小児各期における身体発育・精神発達および発達課題を理解する</p> <p>2. 小児看護の機能と役割を理解する</p> <p>3. 激しく変化する社会の中で、小児がどのような問題をもち日常生活を営んでいるかを理解する</p> <p>4. 小児を取り巻く保健・医療・福祉の制度と活用について学ぶ</p>								
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者	
		1	小児医療・看護の歴史の変遷と歴史的位置づけ 小児と家族の諸統計 小児医療・看護のめざすもの				講義・GW	赤堀	
		2	子どもの成長・発達 成長/発達とは 成長・発達の進み				講義	赤堀	
		3	" 成長・発達の評価 影響因子				講義	赤堀	
		4	" 学童期 思春期 学校保健 DVD鑑賞80「目で見ると子どもの保健」				講義・GW	赤堀	
		5	子どものトピックス 小児看護における倫理 小児看護の課題				講義・GW	赤堀	
		6	現代の母子衛生 医療費 予防接種				講義・GW	赤堀	
		7	(協同授業)現代社会における小児看護の課題 セミナー グループワーク				講義・GW	赤堀 川合・徳山	
		8	試験					赤堀	
	単元ごとは順不同です。								
評価方法	筆記試験90点 協同授業レポート・グループワーク参加度10点								
履修上の 注意	自分の子ども時代・成育歴などを振り返ることがあります。 第7回目は母性看護学との協同授業となります。別途で要綱を配布します。								
テキスト	奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[1]小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院 山元恵子監, 写真でわかる小児看護技術アドバンス, インターメディア SENKUSHAメディカルトリル編集部, 小児看護学まとめドリル, SENKOSHA								
参考図書	奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[2]小児看護学各論, 医学書院								

授業科目	小児看護学 疾患と治療		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	那須裕郷 高梨浩一郎 植田太輔 七野紀之	
	職種	医師									
授業の ねらい ・目標	健康障害を持つ小児の看護が実践できるために、専門基礎知識として小児の固有な症状や疾患について学ぶ 1. 小児によく見られる疾患の病態生理について理解する 2. 小児によく見られる疾患の検査・治療について理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	染色体遺伝					講義	七野		
		2	内分泌・代謝					講義	七野		
		3	神経疾患①					講義	七野		
		4	神経疾患②					講義	七野		
		5	血液・造血器疾患、悪性腫瘍					講義	那須		
		6	感染症(細菌・ウイルス)					講義	那須		
		7	発達障害(精神疾患含む)					講義	那須		
		8	腎・泌尿器					講義	小児科医		
		9	呼吸器疾患					講義	高梨		
		10	循環器疾患					講義	高梨		
		11	消化器疾患					講義	高梨		
		12	救急・外傷					講義	高梨		
		13	新生児					講義	植田		
		14	アトピー性皮膚炎					講義	植田		
		15	アレルギー疾患					講義	植田		
		16	試験						那須・高梨 植田・七野		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意	講義に合わせながら国家試験問題に取り組むことができると理解しやすいと思います。										
テキスト	奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[1]小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院 奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[2]小児看護学各論, 医学書院										
参考図書	小田清一編, 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会 小林京子編, 新体系看護学全書 小児看護学概論小児保健, メヂカルフレンド社 小山真理子編, 看護学基礎テキスト 看護の対象, 日本看護協会出版会										

授業科目	小児看護学 看護方法Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	赤堀 夏海
	職種	専任教員								
授業の ねらい ・目標	<p>小児の各時期の特徴を理解し、小児の成長発達を育むための関わりを学ぶ。また、日常生活の中で疾病を罹患した児と、その家族に対する看護について学ぶ。(成長発達を育む看護)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児が健康な生活を営むための保健・看護について学ぶ</li> <li>2. 健康障害を持つ小児の特徴を踏まえ、小児看護の目的と役割を理解する</li> <li>3. 健康障害を持つ小児とその家族を看護過程を用いて把握し、問題解決に向けて看護を展開する能力を養う</li> </ol>									
授業内容お よび方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者		
		1	母子手帳を通して成長を見ていこう！ 1か月健康診査				講義	赤堀		
		2	3～4か月児健康診査 首のすわり・児の反応 目・耳				講義 GW	赤堀		
		3	6～7か月児健康診査 寝返り・ひとり座り・離乳食・口の中・目				講義 GW	赤堀		
		4	9～10か月健康診査 ハイハイ・つかまり立ち・離乳・歯の生え方				講義 GW	赤堀		
		5	1歳児健康診査 歯磨き				講義 GW	赤堀		
		6	1歳6か月児健康診査 目の異常・予防接種・目・耳 離乳の完了				講義 GW	赤堀		
		7	2歳児健康診査2語文・肉や繊維のあるものをたべるか 栄養状態				講義 GW	赤堀		
		8	3歳児健康診査 名前が言える・フッ素の塗布・遊び友達がいるか				講義 GW	赤堀		
		9	4歳児健康診査 おしっこが一人でできる衣服の着脱・ケンケンができる 5歳児健康診査 うんちが一人でできる・でんぐりがえしができる 6歳児健康診査 第一大臼歯が生えたか プレパレーション・ディスクラクションの必要性				講義 GW	赤堀		
		10	さくらんぼ保育園訪問準備				GW	赤堀		
		11	さくらんぼ保育園訪問Aチーム0～2歳児 Bチーム遊び企画作成				演習	赤堀		
		12	さくらんぼ保育園訪問Aチーム遊び企画作成 Bチーム0～2歳児				演習	赤堀		
		13	さくらんぼ保育園訪問Aチーム遊びの展開(3～5歳児) Bチームペーパーペイシエント『事例ネフローゼ症候群の子ども』情報分類とアセスメント				演習	赤堀		
		14	さくらんぼ保育園訪問Bチーム遊びの展開(3～5歳児) Aチームペーパーペイシエント『事例ネフローゼ症候群の子ども』情報分類とアセスメント				演習	赤堀		
	15	試験と『事例ネフローゼの子ども』の看護展開の共有				試験・講義	赤堀			
評価方法	筆記試験(演習参加で受験資格あり) 課題提出									
履修上の 注意	ハサミ・のり・色ペンなどの持ち物を依頼することがあります。 保育園への訪問等では爪、頭髪、アクセサリ等節度を考え、服装を整え参加すること。									
テキスト	奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[1]小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院 奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[2]小児看護学各論, 医学書院 山元恵子監, 写真でわかる小児看護技術アドバンス, インターメディア SENKUSHAメディカルトリル編集部, 小児看護学まとめドリル, SENKOSHA									
参考図書										

授業科目	小児看護学 看護方法Ⅱ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	赤堀 夏海 増田 陽美	
										職種	専任教員 看護師
授業の ねらい ・目標	健康障害を持つ小児と家族を理解し、どのような状態でも可能な限り成長発達を支え、個別的看護が実践できるための必要な知識・技術を修得する。(成長発達を支える看護) 1. 健康障害や入院が小児や家族に与える影響について理解する 2. 小児に特有な健康障害と看護について理解する 3. 小児に特有な基礎的知識および技術を習得する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	障がいのある子どもと家族との交流とボランティア参加					演習	赤堀		
		2	ボランティア参加の体験発表 疾病と障害のある子どもの看護					GW	赤堀		
		3	小児のアセスメント(新生児のバイタルサイン、乳児の身体計測デモンストレーション)					講義	赤堀		
		4	(協同授業)フィジカル・ヘルスアセスメント 実践・演習 新生児のバイタルサイン、乳児の身体計測					講義	赤堀 川合、徳山		
		5	事例を通してプレパレーション・ディストラクションを用い看護技術実践(与薬の看護)3・4・5歳					講義・演習	赤堀		
		6	事例を通してプレパレーション・ディストラクションを用い看護技術実践(検査時の看護)3・4・5歳					講義・演習	赤堀		
		7	新生児(低出生体重児)の看護					講義	増田		
		8	新生児の蘇生・入院中の子どもと家族の看護					講義	増田		
		9	在宅看護の必要な子どもと家族の看護					講義	増田		
		10	周手術期の子どもと家族の看護 症状を示す子どもの看護					講義	増田		
		11	終末期の子どもと家族の看護 症状を示す子どもの看護					講義	増田		
		12	看護過程 1					講義	赤堀		
		13	看護過程 2					講義	赤堀		
		14	看護過程 3					講義	赤堀		
		15	試験とまとめ						赤堀 増田		
評価方法	筆記試験(演習参加で受験資格あり)										
履修上の 注意	第5回は母性看護学との協同授業です。技術演習になりますので事前準備、服装・持ち物など確認してください。この技術演習には配点があります。										
テキスト	奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[1]小児看護学概論小児臨床看護総論, 医学書院 奈良間美保他, 系看専門 小児看護学[2]小児看護学各論, 医学書院 山元恵子監, 写真でわかる小児看護技術アドバンス, インターメディア SENKUSHAメディカルドリル編集部, 小児看護学まとめドリル, SENKOSHA										
参考図書											

授業科目	母性看護学 原論		単位	1単位	時間数	30時間	講義期間	1年次後期	担当者	川合 陽子	
									職種	専任教員	
授業の ねらい ・目標	<p>母性看護の対象を総合的に理解し、母性の生涯を通じた健康の保持・増進、疾病の予防、次世代育成のための看護の必要性を学び、実践の基礎をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>母性の概念、母性看護の対象と役割を理解する。</li> <li>母性看護の対象を取り巻く環境を理解する。</li> <li>母性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解し、健康の保持・増進と疾病の予防に向けての看護の実際を学ぶ。</li> <li>生命倫理について考える。</li> </ol>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当者		
		1	母性とは 母性の身体的特性と心理・社会的特性					講義	川合		
		2	母子関係と家族発達 母性看護における主要概念(リプロダクティブヘルス/ライツ)					講義	川合		
		3	母性看護における主要な概念(ヘルスプロモーション、エンパワーメント)					講義	川合		
		4	母性看護の考え方・あり方、Women Centerd Care、Family Centerd Care、母性看護の対象とは					講義	川合		
		5	Sexality(セックスとジェンダー、人間の性行動の特徴、性反応、性の多様性)					講義	川合		
		6	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状					講義	川合		
		7	母子保健統計・母性看護に関する施策・法律に関するグループワーク					講義	川合		
		8	母子保健統計・母性看護に関する施策・法律に関するグループワーク、発表					講義	川合		
		9	母性のライフステージ各期の特徴と看護:思春期の身体的、心理・社会的特徴					講義	川合		
		10	母性のライフステージ各期の特徴と看護:思春期の健康問題と看護					講義	川合		
		11	思春期の健康問題と看護演習(保健指導・ピアカウンセラー体験)					演習	川合		
		12	母性のライフステージ各期の特徴と看護:成熟期の身体的、心理・社会的特徴、健康問題と看護					講義	川合		
		13	母性のライフステージ各期の特徴と看護:更年期・老年期の健康問題と看護(更年期障害、尿失禁、骨粗しょう症)					講義	川合		
		14	(協同授業)現代社会における母性看護の課題 母性小児協同セミナー グループワーク					講義	川合・徳山 赤堀		
	15	試験、母性・小児協同セミナーレポート作成					テスト	川合			
評価方法	筆記試験80点、思春期の健康問題と看護演習課題提出10点、母性・小児協同セミナーレポート・グループワーク参加状況10点、計100点で評価する。										
履修上の 注意	第14回は小児看護学との協同授業です。母性看護学原論2時間と小児看護学原論2時間の合わせて4時間の講義内容となります。母性看護学の対象はマタニティサイクルにある女性だけでなく、すべてのライフサイクルにある女性とその家族、そしてその対象の生活する地域社会をも含みます。広く母性を捉え、母性を取り巻く現状や社会情勢に目を向け、看護として今何をすべきかともに考えていきましょう。										
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1, 医学書院										
参考図書	国民衛生の動向										

授業科目	マタニティサイクルの経過 正常経過		単位	マタニティサイクルにおけるしくみ 異常経過と合わせて1単位	時間数	20時間	講義期間	2年次前期	担当者	徳山 今日子	
										職種	専任教員
授業のねらい・目標	妊娠・分娩・産褥期の正常経過を理解する。										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者		
	正常経過	1	妊娠経過・生理					講義	徳山		
		2	母体の変化・胎児の特徴					講義	徳山		
		3	妊婦と胎児のアセスメント					講義	徳山		
		4	分娩の生理・分娩機序					講義	徳山		
		5	分娩の経過・産痛・分娩が胎児に及ぼす影響					講義	徳山		
		6	産褥の経過 退行性変化					講義	徳山		
		7	産褥の経過 進行性変化・産褥期の心理					講義	徳山		
		8	新生児の特徴					講義	徳山		
		9	新生児の機能					講義	徳山		
		10	試験(正常経過・異常経過)					講義	徳山		
評価方法	筆記試験										
履修上の注意											
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院										
参考図書	坂井 建雄 編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院 病気が見える vol 10 産科										

授業科目	マタニティサイクルの経過 異常経過		単位	マタニティサイクルにおけるしくみ 正常経過と合わせて1単位	時間数	10時間	講義期間	2年次前期	担当者	小松 孝之
									職種	医師
授業のねらい・目標	妊娠・分娩・産褥期の異常経過を理解する。									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当者	
	異常経過	1	妊娠期の異常(感染症、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群)					講義	小松	
		2	妊娠期の異常(切迫流・早産、異所性妊娠、妊娠糖尿病)					講義	小松	
		3	分娩の異常(産道・娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害、胎児の付属物の異常、分娩損傷)					講義	小松	
		4	分娩の異常(異常分娩、分娩3期・直後の異常、異常出血)					講義	小松	
		5	産褥の異常(子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓、精神障害)					講義	小松	
	6	試験(45分)						小松		
評価方法	筆記試験									
履修上の注意										
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院									
参考図書	坂井 建雄 編, 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学, 医学書院 末広 浩 編, 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 女性生殖器, 医学書院									

授業科目	マタニティサイクルにおける看護 正常経過の看護 異常経過の看護						担当者	堀 彩乃 徳山 今日子
	単位	1単位	時間数	30時間	講義期間	2年次	職種	助産師 専任教員
授業の ねらい ・目標	マタニティサイクルにある対象者の健康の保持・増進と疾病の予防、異常の早期発見に向けての看護の実際を学ぶ。 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常経過な経過を理解し、健康の保持・増進と疾病の予防に向けての看護の実際を学ぶ。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常経過を理解し、異常の早期発見に向けての看護の実際を学ぶ。							
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当者
		1	母性看護学とは 妊婦健康診査に関わる看護				講義	徳山
		2	妊婦健康診査と保健指導				講義	徳山
		3	妊娠期の保健指導				講義	徳山
		4	妊娠期の異常経過の看護 1				講義	堀
		5	妊娠期の異常経過の看護 2				講義	堀
		6	分娩看護1～2期の看護について				講義	徳山
		7	分娩看護3～4期の看護について				講義	徳山
		8	分娩期の異常経過の看護				講義	堀
		9	産褥期看護 退行性変化を促す看護				講義	徳山
		10	産褥期看護 進行性変化を促す看護				講義	徳山
		11	産褥期看護 セルフケアを促す看護				講義	徳山
		12	産褥期の異常経過の看護				講義	堀
		13	新生児看護 出生時の看護				講義	徳山
		14	新生児看護 移行期の看護				講義	徳山
	15	試験					堀・徳山	
評価方法	筆記試験とポートフォリオ状況で総合的に評価する。(正常看護70点・異常看護30点)							
履修上の 注意	ポートフォリオ作成を行う。期日には提出できるように計画的に進める。							
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院							
参考図書	堀内 成子 編, パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護, 照林社 仁志田 博司 編, 新生児学入門, 医学書院 平澤 美恵子 編, 写真でわかる母性看護技術, インターメディカ 有森 直子 編, 母性看護学II 周産期各論, 医歯薬出版株式会社							

授業科目	マタニティサイクルにおける看護看護過程・看護技術		単位	1単位	時間数	15時間	講義期間	2年次	担当者	川合 陽子
									職種	専任教員
授業のねらい・目標	<p>母性看護学の看護展開に必要な思考と技術を身に着けることができる。</p> <p>1. 産褥期・新生児期の看護過程が理解できる。</p> <p>2. 妊娠・分娩・産褥期の看護技術が根拠をもって実施できる。</p>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当者		
		1	沐浴、レオポルド触診法、新生児のバイタルサイン測定 褥婦の観察(進行性・退行性変化)のデモンストレーション				講義	川合		
		2	協同授業 沐浴、レオポルド触診法、新生児のバイタルサイン測定、褥婦の子宮底長測定、乳児の身体計測の演習				演習	川合・徳山 赤堀		
		3	産褥期の看護過程				講義	川合		
		4	産褥期の看護過程の発表				講義	川合		
		5	新生児期の看護過程				講義	川合		
		6	新生児期の看護過程の発表				講義	川合		
		7	看護過程のまとめ				講義	川合		
		8	試験					川合		
評価方法	<p>1. 妊娠・分娩・産褥期に関連する看護技術の演習結果</p> <p>2. 筆記試験</p>									
履修上の注意	<p>第7回は小児看護学との協同授業(演習)です。小児看護方法Ⅱ2時間と合わせて4時間の演習となります。妊娠・分娩・産褥期・新生児・乳児に関連する看護技術の演習に向けて、各自練習を行い臨むこと。</p>									
テキスト	森 恵美 編, 系統別看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2, 医学書院									
参考図書	<p>堀内 成子 編, パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護, 照林社</p> <p>仁志田 博司 編, 新生児学入門, 医学書院</p> <p>平澤 美恵子 編, 写真でわかる母性看護技術, インターメディカ</p> <p>有森 直子 編, 母性看護学Ⅱ 周産期各論, 医歯薬出版株式会社</p>									

授業科目	精神看護学 原論 精神看護の概念		単位	精神看護学原論で1単位	時間数	20時間	講義時期	1年次後期	担当者	宮崎 杏子	
									職種	専任教員	
授業のねらい・目標	現代社会における心の健康の現状を知り、精神看護の必要性を学ぶ 1. 人間のこころの発達を基盤に、心の健康を保持増進するための援助について理解する 2. 精神看護の基本的な考え方を理解する 3. 社会変化に伴う精神保健医療福祉の変遷を理解する 4. 精神保健活動と看護の役割を理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	こころの健康とは何か こころの機能の特性とは					講義	宮崎		
		2	フロイトの精神分析、自我の防衛機制とは					講義	宮崎		
		3	精神看護の位置づけ、精神看護の対象と役割					講義	宮崎		
		4	精神保健医療の歴史					講義	宮崎		
		5	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律					講義	宮崎		
		6	精神保健医療福祉に関する法制度					講義	宮崎		
		7	心の健康に関する普及啓発、リエゾン精神看護、患者の権利擁護					講義	宮崎		
		8	精神障害者における倫理を考える					講義	宮崎		
		9	精神保健福祉の動向と課題					講義、GW	宮崎		
		10	試験(田口・宮崎) 精神看護まとめ					試験・講義	宮崎		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験 60点/100点										
履修上の注意											
テキスト	武井麻子他, 系看、専門分野 精神看護の基礎、医学書院 武井麻子他, 系看、専門分野 精神看護の展開 医学書院 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社 峰村淳子他編著, よくわかる看護職の倫理綱領, 照林社										
参考図書											

授業科目	精神看護学 原論 精神保健の概念		単位	精神看護学原論で1単位	時間数	10時間	講義時期	1年次後期	担当者	田口博之
									職種	医師
授業のねらい・目標	1. 人間の心の発達を基盤に心の危機状態を学習し、心の不健康の意味と援助を考える									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当	
		1	現代社会と精神保健的問題、社会病理現象(ドラッグ、ギャンブル依存症、自殺)					講義	田口	
		2	さまざまな社会病理現象(対象喪失の過程 依存症、周産期のメンタルヘルス、PTSD)					講義	田口	
		3	身体疾患を持つ人の心の健康					講義	田口	
		4	ターミナルケア 精神保健と社会					講義	田口	
		5	学校と精神保健 職場と精神保健 社会資源、災害時の精神保健					講義	田口	
単元ごとは順不同です。										
評価方法	筆記試験 40点/100点									
履修上の注意										
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社									
参考図書										

授業科目	精神看護学 疾患と治療		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	2年次前期	担当者	田口 博之	
									職種	医師	
授業の ねらい ・目標	<p>主な精神疾患の病因・病像・症状・経過・治療を学び、精神に健康問題をもつ人の看護の基礎とする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学の概念及びその歴史的な位置付けを理解する</li> <li>2. 正常な精神現象をふまえて、病的な精神症状や知覚障害を理解する</li> <li>3. 精神科治療に必要な診断の基礎を理解する</li> <li>4. 精神疾患の治療である薬物・精神・社会復帰療法を理解する</li> <li>5. 主な精神疾患の症状の種類と特徴・診断・発病後の経過・治療時の留意点を理解する</li> </ol>										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	精神疾患の捉え方 総論(1)					講義	田口		
		2	精神疾患の捉え方 総論(2)					講義	田口		
		3	精神疾患の捉え方 総論(3)					講義	田口		
		4	てんかん、統合失調症					講義	田口		
		5	躁うつ病、物質依存症					講義	田口		
		6	心因性の障害、老年期精神障害					講義	田口		
		7	児童・青年期精神障害 リエゾン精神医学					講義	田口		
		8	試験						田口		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験										
履修上の 注意											
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メディカルフレンド社 岩崎 弥生他編集, 精神障害を持つ人の看護, メディカルフレンド社										
参考図書	萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社										

授業科目	精神看護学 看護方法Ⅰ		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次前期	担当者	宮崎 杏子 渡邊 里佳 宮島 順子 土屋 幹夫	
										職種	専任教員 認定看護師 精神保健福祉士 保健師
授業の ねらい ・目標	精神看護の特徴と患者—看護師関係成立・発展のための方法を学ぶ 治療環境を理解し、安全管理の在り方や看護を学ぶ 1. 精神科における対象を理解する 2. 精神科におけるケアの方法を理解する 3. 看護の倫理と人権擁護を理解する 4. 入院環境と治療的アプローチを理解する 5. 精神保健活動とリハビリテーションについて理解する 6. わが国の精神保健福祉の動向と課題について理解する										
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題					方法	担当		
		1	精神科におけるケアとは DVD鑑賞とレポート					講義	宮崎		
		2	DVD鑑賞とレポート					講義	宮崎		
		3	精神障害を持つ人と「患者—看護師関係」の構築					講義	宮崎		
		4	精神障害を持つ人とのコミュニケーション					講義	宮崎		
		5	精神障害を持つ人との関係の振り返り プロセスレコード					講義	宮崎		
		6	治療的アプローチ 薬物療法と看護					講義	宮崎		
		7	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮					講義	土屋		
		8	ECT、リハビリテーション療法と看護					講義	土屋		
		9	精神障害を持つ人の地域における生活への援助					講義	宮崎		
		10	精神障害を持つ人をケアする家族への支援					講義	土屋		
		11	司法精神医療と看護 災害時の精神看護					講義	宮崎		
		12	県立こころの医療センター見学					講義	宮崎		
		13	精神保健活動と精神保健福祉士としての役割					講義	渡邊		
		14	精神保健福祉の動向と事業の内容					講義	宮島		
		15	テスト まとめ						宮崎		
単元ごとは順不同です。											
評価方法	筆記試験80点 課題レポート20点(県立こころの医療センター見学:事前、事後学習、振り返り)										
履修上の 注意	県立こころの医療センター見学 目的 精神に健康問題をもつ患者に適した療養生活の場と現状を学ぶ。 目標 (1)経過に応じた療養生活の場を見学し、療養環境を知る。 (2)精神に健康問題をもつ患者の社会復帰活動の現状を知る。 (3)精神保健福祉法をふまえ、人権を尊重した生活環境や病棟管理の在り方を考える。 見学実施後、レポート提出										
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 岩崎 弥生他編集, 精神障害を持つ人の看護, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社										
参考図書											

授業科目	精神看護学 看護方法Ⅱ	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次	担当者	毛利 智果 玉井 ヨネ 吉永 洋子 塚本 伸一	
								職種	看護師 精神保健福祉士	
授業の ねらい ・目標	主な症状や疾患に対する看護の方法を学ぶ。患者の事例展開することによりアセスメント能力を養う 1. 精神に健康問題をもつ患者の主な症状の特徴と看護のあり方を理解する 2. 精神に健康問題をもつ患者の主な疾患看護を理解する 3. 精神に健康問題をもつ患者の主な検査・治療・看護を理解する 4. 精神に健康問題をもつ患者にとって、環境を治療的に整えることの重要性がわかる 5. レクリエーション療法の一環として、音楽療法の実践を学ぶ									
授業内容 および方法		回	主題				方法	担当		
	精神看護	1	コースガイダンス				講義	毛利		
		2	うつ病を持つ患者の看護				講義	玉井		
		3	双極性障害を持つ患者の看護				講義	玉井		
		4	長期入院者に関する看護				講義	玉井		
		5	身体疾患を合併している患者への看護				講義	玉井		
		6	自殺に関連した看護				講義	毛利		
		7	自死遺族の体験 セルフヘルプグループ				講義	吉永		
		8	統合失調症の事例演習①急性期看護				講義	毛利		
		9	統合失調症の事例演習②回復期看護				講義	毛利		
		10	統合失調症の事例演習③アセスメント検討				講義	毛利		
		11	統合失調症の事例演習④アセスメント統合				講義	毛利		
		12	統合失調症の事例演習発表⑤全体像検討				講義	毛利		
		13	統合失調症の事例演習発表⑥まとめ				講義	毛利		
	シ レ ク ン リ エ ー 法	14	音楽療法				講義	塚本		
	15	音楽療法				演習	塚本			
単元ごとは順不同です。										
評価方法	事前課題20点 統合失調症の事例演習課題30点 レポート課題30点 試験20点									
履修上の 注意										
テキスト	岩崎 弥生他編集, 精神看護学概論/精神保健, メヂカルフレンド社 岩崎 弥生他編集, 精神障害を持つ人の看護, メヂカルフレンド社 萱間真美編, パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社									
参考図書	江口 重幸, ナラティブと医療, 金剛出版									

授業科目	看護管理と医療安全		単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	2年次後期	担当者	鈴木 久美子 仲田 綾子	
									職種	看護部長 安全管理者	
授業のねらい・目標	質の高い看護を提供するための看護管理の基本的なあり方と役割について学ぶとともに、看護・医療における「安全」を理解するための基礎知識を学ぶ 1. 看護管理の基本的なあり方と役割について理解できる 2. 医療事故の概念について理解できる 3. 看護者の責務としての「安全性の確保」が必要であることが理解できる										
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当		
	看護管理	1	看護のマネジメント 看護ケアのマネジメント					講義	鈴木		
		2	看護ケアのマネジメント					講義	鈴木		
		3	看護業務の実践 看護職のキャリアマネジメント					講義	鈴木		
		4	看護サービス・組織目標達成・人材マネジメント ・看護サービス提供の仕組みづくり					講義	鈴木		
		5	施設備品環境・物品・情報のマネジメント					講義	鈴木		
		6	マネジメントに必要な知識・技術					講義	鈴木		
		7	看護を取り巻く制度					講義	鈴木		
	医療安全	8	組織的な安全管理体制への取り組み					講義	仲田		
		9	医療安全を学ぶことの大切さ					講義	仲田		
		10	患者にかかわる業務における事故防止					講義	仲田		
		11	注射業務と事故防止					講義	仲田		
		12	療養上の世話と事故防止					講義	仲田		
		13	KYT演習1					演習、G.W	仲田		
		14	KYT演習2					演習、G.W	仲田		
15		本試験、まとめ						鈴木・仲田			
評価方法	テスト 演習・GWへの参加状況										
履修上の注意											
テキスト	上泉和子編 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院 川村治子編 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(2) 医療安全 医学書院										
参考図書											

授業科目	看護倫理	単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	3年次前期	担当者	増田 幸子 押尾 智子
								職種	専任教員
授業の 目標 ねらい	<p>様々な看護場面を振り返り、倫理的課題を明確にし看護に必要な倫理的視点を養う。</p> <p>目標</p> <p>(1)実習での体験から気がかりな場면을想起し、他者にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>(2)学生間で意見交換し、他者の考えを知ることができる。</p> <p>(3)グループワークを通して倫理的課題を明確にすることができる。</p> <p>(4)看護者の倫理綱領について再認識し自己の姿勢を再度振り返り、今後の倫理的な態度や行動を考えることができる。</p>								
授業内容 および方法		回	主題				方法	担当	
		1	オリエンテーショングループワーク① 様々な場面の共有をしグループ検討				講義・演習	増田・押尾	
		2	場面共有 グループワーク②				GW	増田・押尾	
		3	グループワーク③全体発表会準備				GW	増田・押尾	
		4	全体発表会				演習	増田・押尾	
		5	全体発表会				演習	増田・押尾	
		6	事例から倫理的課題を検討する				GW	増田・押尾	
		7	全体発表会				演習	増田・押尾	
		8	全体発表会・まとめ				講義・演習	増田・押尾	
評価方法	課題提出、グループワーク・演習参加度								
履修上の 注意									
テキスト	<p>宮坂道夫, 系看 別巻 看護倫理 医学書院、2024</p> <p>峰村淳子他, よくわかる看護職の倫理綱領, 第3版 照林社, 2024</p>								
参考図書									

授業科目	災害看護と 国際看護	単位	1単位	時間数	30時間	講義時期	3年次	担当者	徳山今日子 小沼 由美 増田晶大 川島 初美	
								職種	専任教員 認定看護師 看護師	
授業の ねらい ・目標	<p>災害の定義、災害時のための社会制度、災害医療・災害看護に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、災害時の看護活動の実際を知り、災害看護の役割と介入方法・課題について学ぶ。国際社会において諸外国との協力の必要性を理解し、自己の行動を考えるための基礎的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義、社会制度について理解できる</li> <li>2. 災害医療・看護について理解できる</li> <li>3. 災害看護活動の実際を知ることができる</li> <li>4. 災害時要支援者の特徴を踏まえた支援が理解できる</li> <li>5. 災害時に看護職に期待される役割と課題について理解することができる</li> <li>6. 国際社会の現状と看護の協力について理解できる</li> <li>7. 国際化社会の現状と課題</li> <li>8. 国際化社会の中での看護活動の実際</li> </ol>									
授業内容 および方法	単元の まとめ	回	主題				方法	担当		
	災害 看護	1	災害看護の基礎知識				講義	増田		
		2	災害サイクルに応じた看護1				講義	増田		
		3	災害サイクルに応じた看護2				講義	増田		
		4	被災者特性に応じた看護の実際1				演習、G.W	徳山・小沼		
		5	被災者特性に応じた看護の実際2				演習、G.W	徳山・小沼		
		6	被災者特性に応じた看護の実際3				演習、G.W	徳山・小沼		
	トリアージ 訓練	7	病院トリアージ訓練参加				演習	徳山・小沼		
		8	病院トリアージ訓練参加				演習	徳山・小沼		
		9	災害時の病院の機能と役割 トリアージ区分の役割と看護師の役割				グループワーク	徳山・小沼		
	国際 看護	10	国際化社会と看護				講義	川島		
		11	JICA、国際援助団体について				講義	川島		
		12	異文化と国際情勢からみた看護				講義	川島		
		13	国際化社会の現状と看護				講義	川島		
		14	国際化社会の中での看護活動の実際				講義	川島		
	15	試験・まとめ				試験・講義	徳山・小沼			
評価方法	グループワークの参加状況、提出レポート、テスト、災害トリアージへの参加状況により評価									
履修上の 注意										
テキスト	浦田喜久子編 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院									
参考図書										

授業科目	看護総合 演習Ⅰ (医療安全・多重課題)		単位	1単位	時間数	15時間	講義時期	3年次後期	担当者	小沼 由美 杉本 恵理
									職種	専任教員
授業のねらい・目標	<p>医療安全の基礎知識や既習学習を活用し、医療安全に配慮した看護業務のマネジメントの実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護業務の特性と計画の立案プロセスについて学ぶ。</li> <li>2. 多重課題の遂行においての留意点を理解でき、対象者の安全に配慮した優先順位決定のための思考が理解できる。</li> <li>3. 事例の発達段階や身体的、心理・社会的な特徴から、多重課題の対応の方法を考えられる。</li> <li>4. 演習のリフレクションを通して、多重課題への対応力の向上を目指す。</li> </ol>									
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題					方法	担当	
		1	業務計画の立案とプロセスマネジメント 多重課題が生じる状況と対処 演習オリエンテーション 事例オリ					講義	小沼 杉本	
		2	多重課題における対処①事前に調整できる多重課題 業務計画の作成					G.W	小沼 杉本	
		3	多重課題における対処①事前に調整できる多重課題 業務計画の発表					演習	小沼 杉本	
		4	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題					G.W	小沼 杉本	
		5	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題					G.W	小沼 杉本	
		6	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題発表					演習	小沼 杉本	
		7	多重課題における対処②予測できない業務の発生による多重課題発表					演習	小沼 杉本	
		8	リフレクション まとめ(45分)テストはレポート提出					演習	小沼 杉本	
評価方法	GW・演習への参加の状況、レポートにより評価									
履修上の注意	演習では、看護業務のマネジメントとして、多重課題への対応を考えます。様々な発達段階や病期の患者さんを複数受け持っている場面設定を通して、多重課題(事前に調整できるもの、予測できない業務の発生時)への対応を学びます。夏季休業前に事例課題を課します。									
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践2 医学書院									
参考図書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践②医療安全 メディカ出版									

授業科目	看護総合演習Ⅱ		単位	2単位	時間数	30時間	講義時期	3年次後期	担当者	川合 陽子 松浦 じゅん 増田 幸子		
									職種	専任教員		
授業のねらい・目標	<p>医療安全・看護技術・看護倫理についての基礎的な知識を活用し、あらゆる発達段階や病期に応じた看護が実践できる発展的能力を養う 既習学習を振り返り、自分が目指す看護を具体的に表現できる能力を養う</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例の発達段階や病期に合わせた個別性のある看護技術を考え、実践できる</li> <li>2. 事例への診療の補助技術、日常生活援助技術を通して、安全・安楽・自立を意識した技術提供の必要性が理解できる</li> <li>3. 事例の発達段階から起こりうるリスクを予測し、リスクを未然に防ぐ関わりが考えられる</li> <li>4. 看護者としての倫理的感性を高め、倫理的ジレンマを解決する思考過程を学ぶ</li> <li>5. 過去の授業や実習を通して学んだことを言葉で他者に伝え、自分の描く看護を明確にし、生涯学習につなげることができる</li> </ol>											
授業内容および方法	単元のまとめ	回	主題				方法	担当				
		1	オリエンテーション(事例の提示と状況のアセスメント)				講義	川合・松浦				
		2	医療安全の視点から見た事例の発達段階と病期のアセスメント				G.W/演習	川合・松浦				
		3	各事例の安全・安楽・自立を意識した技術提供について				G.W/演習	川合・松浦				
		4	事例の技術について検討				G.W/演習	川合・松浦				
		5	事例の技術について検討				G.W/演習	川合・松浦				
		6	事例の技術について検討				G.W/演習	川合・松浦				
		7	事例発表				G.W/演習	川合・松浦				
		8	事例発表				G.W/演習	川合・松浦				
		9	事例発表				G.W/演習	川合・松浦				
		10	各事例のリフレクション(倫理的ジレンマについて)				G.W/演習	川合・松浦				
		11	各事例のリフレクション(倫理的ジレンマについて)				G.W/演習	川合・松浦				
		看護のまとめ	12	自己の振り返り				演習	増田			
			13	お互いの思いを語り合おう				G.W/演習	増田			
			14	お互いの思いを語り合おう				G.W/演習	増田			
	15		まとめ				演習	増田				
評価方法	<p>技術試験(OSCE評価)・・・60点 グループの動画評価・・・10点 ピア評価・・・10点 レポート評価・・・20点</p>											
履修上の注意	<p>・演習授業のため一回でも授業を休むと単位の修得ができません。(やむを得ない場合は相談してください。)</p> <p>・グループワークや実習室での演習が多くなります。体調管理をして授業に臨んでください。</p> <p>・備品の管理、服装・態度等整えられない学生は授業に参加できません。</p>											
テキスト	<p>有田清子他 系統看護学講座 基礎看護学③「基礎看護学技術Ⅱ」医学書院 吉田みつ子監修「写真でわかる基礎看護技術アドバンス」インターメディカ</p>											
参考図書	<p>医療情報科学研究所編「看護技術がみえるvol.1、vol.2」基礎看護技術 メディックメディア</p>											















